

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学部設置							
フリガナ設置者		ガクコウガクゼン ホクセイケン 学校法人 北星学園							
フリガナ大学の名称		ホクセイケンダク 北星学園大学（Hokusei Gakuen University）							
大学本部の位置		北海道札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号							
大学の目的		本学は、キリスト教による人格教育を基礎とし、広く教養を培うとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、応用的能力を発揮させることを目的とする。							
新設学部等の目的		地域・社会・世界の諸情勢に絶えず目を向け、平和と尊厳を大切にしながら国際社会の多様性を受容し、使命感をもって持続可能な国際社会の実現と発展に貢献できるグローバル・リーダーの養成を目的とする。特にグローバル・イノベーション学科では、変化を続ける世界の中で、国家・地域などの境界を越えて人々が行き来する“クロス・ボーダー社会”の多様性を、文化的、制度的、地理的、経済的な観点から多面的に捉えて理解し、実践的な学修・研究を通じて得られる柔軟な思考力を活用し、他者と協働して国際社会にイノベーションを生み出すことができる人材の養成を目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	国際学部 グローバル・イノベーション学科 計	4年	95人	1年次 -人	380人	学士 (グローバル・イノベーション学)	文学関係 経済学関係	令和8年4月 第1年次	北海道札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		令和8年4月 入学定員及び編入学定員変更予定 文学部 英文学科〔定員減〕 (△40) (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△10) 心理・応用コミュニケーション学科〔定員減〕 (△6) (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△10) 経済学部 経済学科〔定員減〕 (△9) (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△6) 経営情報学科〔定員減〕 (△5) (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△5) 経済法学科〔定員減〕 (△12) (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△5) 社会福祉学部 社会福祉学科 (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△5) 心理学科 (3年次編入学定員)〔定員減〕 (△5)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際学部 グローバル・イノベーション学科	講義	演習	実験・実習	計				
		163 科目	49 科目	18 科目	230 科目	124 単位			

学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)			
		教授	准教授	講師	助教	計					
新設分	国際学部グローバル・イノベーション学科	7 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (11)	0 (0)	89 (89)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (8)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)					
	小計（a～b）	6 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (10)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)					
	計（a～d）	7 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (11)					
	計	7 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (11)	0 (0)	- (-)			
	既設分	文学部英文学科	13 (14)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	18 (19)	0 (0)		149 (149)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 5人
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	10 (11)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	14 (15)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		3 (3)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	4 (4)					
小計（a～b）		13 (14)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	18 (19)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）		13 (14)	2 (2)	2 (2)	1 (1)	18 (19)					
文学部心理・応用コミュニケーション学科		6 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (14)	0 (0)	152 (152)			
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (10)					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)					
小計（a～b）		6 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (14)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計（a～d）		6 (7)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (14)					

既

経済学部経済学科		9 (9)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	166 (166)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	15 (15)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	3 (3)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	5 (5)			
小計（a～b）		9 (9)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	20 (20)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		9 (9)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	20 (20)			
経済学部経営情報学科		9 (9)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			0 (0)
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (6)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (10)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (3)			
小計（a～b）		9 (9)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		9 (9)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	13 (13)			
経済学部経済法学科		6 (7)	3 (3)	3 (2)	0 (0)	12 (12)			0 (0)
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (5)	2 (2)	3 (2)	0 (0)	9 (9)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
小計（a～b）		5 (6)	3 (3)	3 (2)	0 (0)	11 (11)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（a～d）		6 (7)	3 (3)	3 (2)	0 (0)	12 (12)			
社会福祉学部社会福祉学科		19 (21)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	20 (23)			0 (0)
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	15 (17)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	16 (19)			
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	4 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (4)			
小計（a～b）		19 (21)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	20 (23)			
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		19 (21)	0 (1)	0 (0)	1 (1)	20 (23)			

設

分

既 設 分	社会福祉学部心理学科		6 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	155 (155)	大学設置基準別表第一 に定める基幹教員数 の四分の三の数 6人
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	9 (9)			
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	1 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (3)			
	小計（a～b）		6 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (12)			
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		6 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	11 (12)			
計			68 (74)	22 (23)	15 (14)	2 (2)	107 (113)	0 (0)	- (-)	
合 計			75 (80)	26 (27)	16 (15)	2 (2)	119 (124)	0 (0)	- (-)	
職 種			専 属			そ の 他			計	
事 務 職 員			99 (99)			28 (28)			127 (127)	
技 術 職 員			1 (1)			0 (0)			1 (1)	
図 書 館 職 員			6 (6)			3 (3)			9 (9)	
そ の 他 の 職 員			0 (0)			0 (0)			0 (0)	
指 導 補 助 者			0 (0)			0 (0)			0 (0)	
計			106 (106)			31 (31)			137 (137)	
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地		109,202.00 m ²		0 m ²		0 m ²		109,202.00 m ²	
	そ の 他		3,524.00 m ²		0 m ²		0 m ²		3,524.00 m ²	
	合 計		112,726.00 m ²		0 m ²		0 m ²		112,726.00 m ²	
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
			47,636.47 m ² (47,636.47 m ²)		0 m ² (0 m ²)		0 m ² (0 m ²)		47,636.47 m ² (47,636.47 m ²)	
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		118 室		教 員 研 究 室		144 室	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	
	国際学部グローバ ル・イノベーション 学科		42,327 [13,119] (40,452 [12,933])		183 [118] (174 [112])		18 [6] (18 [6])		13 [13] (13 [13])	
	計		42,327 [13,119] (40,452 [12,933])		183 [118] (174 [112])		18 [6] (18 [6])		13 [13] (13 [13])	
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂			厚生補導施設		
			5,723.35 m ²		524.72 m ²			7,281.31 m ²		

経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度		第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	教員 1 人当り研究費等については、このほかに多様な研究活動の活性化を図るために、条件に応じて様々な追加加算が措置される。 開設前年度の図書購入費・設備購入費については、改組前の学科で経費を見積もっているため、積算しない。 図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む。	
		教員 1 人当り研究費等			500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	— 千円	— 千円		
		共同研究費等			500 千円	500 千円	500 千円	500 千円	— 千円	— 千円		
		図 書 購 入 費	— 千円	1,500千円	3,000千円	4,400千円	5,900千円	— 千円	— 千円			
		設 備 購 入 費	— 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	— 千円	— 千円			
	学生 1 人当り納付金			第 1 年次		第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次		
			1,250千円		1,150千円	1,150千円	1,150千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			資産運用収入及び手数料収入等を充当する。									
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		北星学園大学									北海道札幌市厚別区大谷地西 2 丁目 3 番 1 号
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地		
	文学部		年	人	年次人	人		倍				
	英文学科		4	131	3年次15	536	学士 (英文学)	1.08	昭和37年度			
	心理・応用コミュニケーション学科		4	96	3年次10	398	学士 (心理・応用コミュニケーション学)	1.13	平成14年度			
	経済学部							1.12				
	経済学科		4	161	3年次6	647	学士 (経済学)	1.10	昭和40年度			
	経営情報学科		4	107	3年次5	433	学士 (経営情報学)	1.14	昭和62年度			
	経済法学科		4	116	3年次5	468	学士 (経済法学)	1.14	平成14年度			
	社会福祉学部							1.07				
	社会福祉学科		4	120	3年次5	365	学士 (社会福祉学)	1.04	令和5年度			
	心理学科		4	70	3年次5	284	学士 (心理学)	1.10	令和5年度			
	福祉計画学科		4	—	—	—	学士 (福祉計画学)	—	平成8年度			
福祉臨床学科		4	—	—	—	学士 (福祉臨床学)	—	平成8年度				
既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称		北星学園大学大学院									北海道札幌市厚別区大谷地西 2 丁目 3 番 1 号
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所 在 地		
	社会福祉学研究科		年	人	年次人	人		倍				
	社会福祉学専攻 (修士課程)		2	4	—	12	修士 (社会福祉学)	1.08	平成12年度			
	臨床心理学専攻 (修士課程)		2	4	—	8	修士 (心理学)	0.87	平成18年度			
	社会福祉学専攻 (博士〔後期〕課程)		3	2	—	8	博士 (社会福祉学)	0.62	平成12年度			
	文学研究科											
	言語文化コミュニケーション専攻 (修士課程)		2	3	—	11	修士 (言語文化コミュニケーション)	0.54	平成13年度			
	経済学研究科											
	経済学専攻 (修士課程)		2	4	—	14	修士 (経済学)	0.21	平成13年度			

既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称	北星学園大学短期大学部								
	学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	英文学科	2	—	—	—	短期大学士 (英語)	—	昭和55年度	北海道札幌市厚別区 大谷地西2丁目3番 1号	
	生活創造学科	2	—	—	—	短期大学士 (生活学)	—	平成14年度		
附属施設の概要		該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																
（国際学部グローバル・イノベーション学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要 授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員以外の教員	
専門科目	入門科目	グローバル・イノベーションⅠ	1前	○	2			○								
		グローバル・イノベーションⅡ	1後	○	2			○		1	1					
		国際関係論Ⅰ	1前	○	2			○								1
		国際関係論Ⅱ	1後	○	2			○								1
		国際経営学概論	1後	○	2			○		1						
		アントレプレナーシップ概論	1後	○	2			○								1
		小計（6科目）	—	—	12	0	0	—	—	2	1	0	0	0	2	—
	演習科目	リサーチ方法論Ⅰ	1前	○	2			○		4	1					
		リサーチ方法論Ⅱ	2前	○	2			○		3	2	1				
		プロジェクト演習Ⅰ	2前			2		○		2	1					
		プロジェクト演習Ⅱ	2後			2		○		2	1					
		専門演習Ⅰ	3前	○	2			○		5	3	1				
		専門演習Ⅱ	3後	○	2			○		5	3	1				
		卒業研究Ⅰ	4前	○	2			○		5	3	1				
		卒業研究Ⅱ	4後	○	4			○		5	3	1				
		小計（8科目）	—	—	14	4	0	—	—	5	3	1	0	0	0	—
	外国語	Integrated EnglishⅠ	1前	○	2			○		2						1
		Integrated EnglishⅡ	1後	○	2			○		1	1					1
		Integrated EnglishⅢ	2前	○	2			○		1		1				1
		Integrated EnglishⅣ	2後	○	2			○		1	1					1
		English for Global CommunicationⅠ	1前	○	2				○		1					2
		English for Global CommunicationⅡ	1後	○	2				○		1					2
		Advanced EnglishⅠ	1前			2			○		1					
		Advanced EnglishⅡ	1後			2			○		1					
		Interpretation&Hospitality	2前			2		○			1					
		Active English	2後			2		○			1					
		小計（10科目）	—	—	12	8	0	—	—	2	2	1	0	0	2	—
	基幹科目	人類学	2前	○		2		○			1					
		比較地理学	2前	○		2		○								
		国際政治学	2前	○		2		○								1
		国際法	2前	○		2		○		1						
		国際経済学	2前	○		2		○								1
		小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	2	1	0	0	0	2	—
		戦略マネジメント	2前	○		2		○		1						
		プロジェクト・マネジメント論	2前	○		2		○		1						
		起業ケーススタディー	2前	○		2		○		1						
		リーダーシップ論	2前	○		2		○								1
		国際ビジネス	2前	○		2		○				1				
		小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	2	0	1	0	0	1	—
	発展科目	多文化共生フィールドワーク	2後			2		○			1					
		ジャパン・スタディーズ	2後			2		○			1					
		都市環境フィールドワーク	3前			2		○		1						
		国際政策論	2後			2		○								1
		国際人権法	2後			2		○		1						
		国際平和学	3前			2		○								1
		国際機構論	3前			2		○								1
		開発経済論	2後			2		○								1
		アジア経済論	3前			2		○								1
		フェアトレードⅠ	3前			2		○								1
		フェアトレードⅡ	3後			2		○								1
		小計（11科目）	—	—	0	22	0	—	—	2	2	0	0	0	6	—
		組織行動学	2後			2		○								1
	国際経営	比較文化組織行動学	3前			2		○			1					
		ビジネス倫理と法	2後			2		○								1
		リスクマネジメント	2後			2		○								1
		観光経営学	2後			2		○		1						
		イベントマネジメント演習	3後			2			○	1						

専 門 科 目	発 展 科 目	国 際 経 営	コーポレート・コミュニケーション	2後			2		○				1				
			国際マーケティング	3前			2		○					1			
			会計学Ⅰ	2後			2		○								
			会計学Ⅱ	3前			2		○							1	
			多国籍企業リーダーシップ論	2後			2		○					1			
			グローバル・ビジネス・アクターズ	2後			2		○					1			
			アントレプレナーシップ演習	3前			2			○						1	
			変革マネジメント	3後			2		○					1			
			小計（14科目）	—	—	0	28	0	—	—	—	—	1	1	1	0	5
	イノベーション科目		イノベーション史	2前	○		2		○				1				
			クリエイティビティの心理	2後	○		2		○				1				
			イノベーション・マネジメント論	2後	○		2		○								
			世界のイノベーションリーダー	2後	○		2		○					1			
			ソーシャル・イノベーション	2前	○		2		○				1				
			フィランソロピーと非営利セクター	2後	○		2		○							1	
			サステナビリティ論	2前	○		2		○							1	
			小計（7科目）	—	—	0	14	0	—	—	—	—	2	1	1	0	2
	地域研究科目	地域研究	地域研究A	3前	○		2		○					1			
			地域研究B	3前	○		2		○					1			
			地域研究C	3前	○		2		○				1				
			地域研究D	3前	○		2		○				1				
			地域研究E	3前	○		2		○							1	
			小計（5科目）	—	—	0	10	0	—	—	—	—	2	2	0	0	1
		地域研究特論	観光と北海道研究	3後			2		○					1			
			アイヌとマオリ研究	3後			2		○					1			
			アジア文化論	3後			2		○							1	
			ヨーロッパ文化論	3後			2		○				1				
			小計（4科目）	—	—	0	8	0	—	—	—	—	1	2	0	0	1
	留 学 ・ 国 際 共 修 科 目	G l o b a l S t u d y A b r o a d E x p e r i e n c e s	Intercultural Communication	1前	○	2			○				1				
			Global Skills Training	1後	○	2			○				1	1			
			Study Abroad A	2・3通			2				○		1	1			
			Study Abroad B	2・3通			2				○		1	1			
			Study Abroad C	2・3通			2				○		1	1			
			Study Abroad D	2・3通			2				○		1	1			
			Global Experiences A	2・3通			2				○		2				
			Global Experiences B	2・3通			2				○		2				
			Global Internship A	2・3通			2				○			2			
			Global Internship B	2・3通			2				○			2			
			Global Internship C	2・3通			2				○			2			
			Global Internship D	2・3通			2				○			2			
			小計（12科目）	—	—	4	20	0	—	—	—	—	3	3	0	0	0
		国際共修	国際共修プロジェクトⅠ	3前			2			○			1				
			国際共修プロジェクトⅡ	4前			2			○			1				
			小計（2科目）	—	—	0	4	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0
大 学 共 通 科 目	人 間 科 学		健康管理学	1前			2		○								1
			身体の科学Ⅰ	1前			2		○								1
			身体の科学Ⅱ	1後			2		○								1
			スポーツ医学	2後			2		○								1
			スポーツ生理学	2後			2		○								1
			スポーツ栄養学	2前			2		○								1
			体力科学	2前			2		○								1
			トレーニング科学	1前			2		○								1
			体育実技Ⅰ	2後			2		○								7
			体育実技Ⅱ	1通			2				○						7
			生涯スポーツⅠ	2通			2				○						1
			生涯スポーツⅡ	3通			2				○						1
			コーチング学	4通			2				○						1
			スポーツ科学演習	2前			2		○								1
			スポーツ科学演習Ⅰ	3前			2			○							1
			人間科学演習Ⅰ	3前			2			○							1
			人間科学演習Ⅱ	3後			2			○							1
			小計（16科目）	—		0	32	0	—	—	—	—	0	0	0	0	9

大学 共通科目	人文科学	哲学Ⅰ	1前			2		○							1	メディア（一部クラス）	
		哲学Ⅱ	1前			2		○						1			
		心理学Ⅰ	1前			2		○						4			
		心理学Ⅱ	1後			2		○						3			
		現代社会と倫理	1前・後			2		○						1			
		音楽の世界	1前			2		○						1			
		美術の世界	1後			2		○						1			
		文学の世界Ⅰ	1前			2		○						1			
		文学の世界Ⅱ	1後			2		○						1			
		文化人類学	1後			2		○			1			1			
		世界の諸宗教	1前			2		○						1			
		比較宗教学	1後			2		○						1			
		人文科学基礎演習Ⅰ	1前			2			○		1						
		人文科学基礎演習Ⅱ	1後			2			○		1						
	小計（14科目）	—		0	28	0	—			0	1	0	0	0	12	—	
	自然・ 数理科学	科学と人間	1後			2		○			1						
		物質の世界	1前			2		○									
		生命の科学Ⅰ	1前・後			2		○									
		生命の科学Ⅱ	1後			2		○									
		環境と人間Ⅰ	1前			2		○			1						
		環境と人間Ⅱ	1後			2		○									
		統計学Ⅰ	1前・後			2		○									
		統計学Ⅱ	1後			2		○									
		数学Ⅰ	1前			2		○			1						
		数学Ⅱ	1前			2		○			1						
		自然・数理科学基礎演習Ⅰ	1前			2			○						1		
		自然・数理科学基礎演習Ⅱ	1後			2			○						1		
	小計（12科目）	—		0	24	0	—			1	1	0	0	0	8	—	
	社会科学	日本国憲法	1前			2		○			1					メディア	
		法学	1後			2		○									
		世界の近現代史Ⅰ	1前			2		○									
		世界の近現代史Ⅱ	1後			2		○									
		政治学Ⅰ	1前			2		○									
		政治学Ⅱ	1後			2		○									
		経済学Ⅰ	1前			2		○									
		経済学Ⅱ	1前・後			2		○									
		社会学Ⅰ	1前			2		○									
		社会学Ⅱ	1後			2		○									
		ジェンダーと社会	1後			2		○									
		平和学	1前			2		○									
		社会科学基礎演習Ⅰ	1前			2			○								
		社会科学基礎演習Ⅱ	1前・後			2			○								
	小計（14科目）	—		0	28	0	—			1	0	0	0	0	13	—	
	地域と世界	北海道・北方地域文化論Ⅰ	1前			2		○								メディア（一部クラス）	
		北海道・北方地域文化論Ⅱ	1後			2		○									
		日本の文化Ⅰ	1前			2		○									
日本の文化Ⅱ		1後			2		○										
中国の文化		1前・後			2		○										
韓国・朝鮮の文化		1前			2		○										
アメリカの文化		1後			2		○										
ヨーロッパの文化		1前・後			2		○										
国際・比較文化論		1前・後			2		○										
地域と世界基礎演習Ⅰ		1前			2			○									
地域と世界基礎演習Ⅱ		1後			2			○									
小計（11科目）		—		0	22	0	—			0	0	0	0	0	9		—
キリスト 教 学	キリスト教文化入門Ⅰ	1前		2		○											
	キリスト教文化入門Ⅱ	1後		2		○											
	聖書入門Ⅰ	2前		2		○											
	聖書入門Ⅱ	2後		2		○											
	キリスト教史Ⅰ	2前		2		○											
	キリスト教史Ⅱ	2後		2		○											
	聖書講読Ⅰ	3前		2		○											
	聖書講読Ⅱ	3後		2		○											
	キリスト教 学演習Ⅰ	3前		2			○										
	キリスト教 学演習Ⅱ	3後		2			○										
	小計（10科目）	—		4	16	0	—			0	0	0	0	0		2	—
ギ ャ リ ア 支 援	情 報 科 目	職業と人生	2前・後		2		○								1		
		小計（1科目）	—		0	2	0	—			0	0	0	0	0	1	—
		情報入門	1前		2		○				1					2	
		情報活用	1後		2		○				1					2	
		小計（2科目）	—		4	0	0	—			1	0	0	0	0	3	—

大学 共通科目	外国語	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ	1前			2		○							1		
			ドイツ語Ⅱ	1後			2		○							1		
			ドイツ語Ⅲ	2前			2		○							1		
			ドイツ語Ⅳ	2後			2		○							1		
			小計（4科目）	—		0	8	0	—			0	0	0	0	0	2	—
		フランス語	フランス語Ⅰ	1前			2		○								1	
			フランス語Ⅱ	1後			2		○								1	
			フランス語Ⅲ	2前			2		○								1	
			フランス語Ⅳ	2後			2		○								1	
			小計（4科目）	—		0	8	0	—			0	0	0	0	0	2	—
		中国語	中国語Ⅰ	1前			2		○								1	
			中国語Ⅱ	1後			2		○								1	
			中国語Ⅲ	2前			2		○								1	
			中国語Ⅳ	2後			2		○								1	
			小計（4科目）	—		0	8	0	—			0	0	0	0	0	2	—
		韓国語	韓国語Ⅰ	1前			2		○								1	
			韓国語Ⅱ	1後			2		○								1	
			韓国語Ⅲ	2前			2		○								1	
			韓国語Ⅳ	2後			2		○								1	
			小計（4科目）	—		0	8	0	—			0	0	0	0	0	2	—
		ドイツ語	ドイツ語と文化	2前			2			○							1	
			海外事情（ドイツ語）	2後			2				○						1	
			上級ドイツ語Ⅰ	3前			2			○							1	
			上級ドイツ語Ⅱ	3後			2			○							1	
			外国語演習Ⅰ（ドイツ語）	4前			2			○							1	
			外国語演習Ⅱ（ドイツ語）	4後			2			○							1	
			小計（6科目）	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	2	—
		フランス語	フランス語と文化	2前			2			○							1	
			海外事情（フランス語）	2後			2				○						1	
			上級フランス語Ⅰ	3前			2			○							1	
			上級フランス語Ⅱ	3後			2			○							1	
			外国語演習Ⅰ（フランス語）	4前			2			○							1	
			外国語演習Ⅱ（フランス語）	4後			2			○							1	
			小計（6科目）	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	1	—
		中国語	中国語と文化	2前			2			○							1	
			海外事情（中国語）	2前			2				○						1	
			上級中国語Ⅰ	3前			2			○							1	
			上級中国語Ⅱ	3後			2			○							1	
			外国語演習Ⅰ（中国語）	4前			2			○							1	
			外国語演習Ⅱ（中国語）	4後			2			○							1	
			小計（6科目）	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	1	—
		韓国語	韓国語と文化	2前			2			○							1	
			海外事情（韓国語）	2前			2				○						1	
			上級韓国語Ⅰ	3前			2			○							1	
			上級韓国語Ⅱ	3後			2			○							1	
			外国語演習Ⅰ（韓国語）	4前			2			○							1	
			外国語演習Ⅱ（韓国語）	4後			2			○							1	
			小計（6科目）	—		0	12	0	—			0	0	0	0	0	2	—
国際交流関係科目	国際交流コース	日本の文学〔国際〕	3前・後				2		○							1		
		日本のサブカルチャー	1前・後				2		○							1		
		日本の歴史〔国際〕	1前・後				2		○							1		
		日本の社会〔国際〕	1前・後				2		○							1		
		日本社会における言語とジェンダー〔国際〕	1前・後				2		○							1		
		日本の金融と経済〔国際〕	1前				2		○							1		
		マネジメント論〔国際〕	1前				2		○							1		
		日本の文化〔国際〕	3前・後				2		○							1		
		国際経済〔国際〕	1前・後				2		○							1		
		日米（経済）関係〔国際〕	1後				2		○							1		
		日欧（経済）関係〔国際〕	1前・後				2		○							1		
		比較文化〔国際〕	1前・後				2		○			1				1		
		日韓比較文化論	1前・後				2		○							1		
		メディア論〔国際〕	1前・後				2		○							1		
		コミュニケーション論〔国際〕	1前・後				2		○							1		
		環境経済	1前・後				2		○			1	1			1	メディア（一部クラス）	
		国際交流特別講義	1前・後				2		○							1		
		日本語教授法Ⅰ	2前				2		○							1		
		日本語教授法Ⅱ	2後				2		○							1		
		日本語教授法Ⅲ	3前				2		○							1		
		Academic Skills for Study Abroad	2前・後				2		○							1		
		小計（21科目）	—		0	42	0	—			0	2	1	0	0	16		
合計（230科目）			—	—	50	412	0	—		7	4	1	0	0	89			

学位又は称号	学士（グローバル・イノベーション学）	学位又は学科の分野	文学関係、経済学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
卒業に必要な単位数は124単位である。卒業要件及び履修方法の詳細は、以下の通りである。 「専門科目」から合計76単位以上修得すること。(1)「入門科目」から必修12単位、「演習科目」から必修14単位を修得すること。(2)「外国語」の「英語」から必修12単位を修得すること。(3)「基幹科目」の「国際教養」「国際経営」から各4単位以上を修得すること。(4)「イノベーション科目」から4単位以上を修得すること。(5)「地域研究科目」の「地域研究」から2単位以上を修得すること。(6)「留学・国際共修科目」の「Study Abroad・Global Experiences」から必修4単位と、必修科目以外から2単位以上修得すること。ただし、「Study Abroad・Global Experiences」の必修科目以外の科目から卒業単位数に算入できるのは12単位までである。(7)そのほか「専門科目」の中から18単位を修得すること。 「大学共通科目」から合計22単位以上修得すること。(1)「人間科学」「人文科学」「自然・数理科学」「社会科学」「地域と世界」から各2単位以上を修得すること。また、「キリスト教学」から必修4単位を修得すること。(2)「キャリア支援」の「情報科目」から必修4単位を修得すること。(3)「外国語」のドイツ語Ⅰ～Ⅱ、フランス語Ⅰ～Ⅱ、中国語Ⅰ～Ⅱ、韓国語Ⅰ～Ⅱのいずれか2科目4単位を修得すること。 「専門科目」及び「大学共通科目」で修得すべき98単位以外に必要となる26単位は、上記の修得すべき98単位として修得した授業科目以外の「専門科目」「大学共通科目」「他学部他学科専門教育科目」「国際交流関係科目」から算入できる。ただし、「他学部他学科専門教育科目」「国際交流関係科目」から算入できるのは8単位までである。 (履修科目の登録の上限：40単位（年間）)		1 学年の学期区分	2学期
		1 学期の授業期間	14週
		1 時限の授業の標準時間	100分

授 業 科 目 の 概 要				
（国際学部グローバル・イノベーション学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	入 門 科 目	グローバル・イノベーションⅠ	○	本科目は講義形式でありながら、アクティブラーニングを取り入れ、競争が激化する課題の多いグローバル社会において価値を創出するための「思考法」と「知識」を学ぶ。前半の7週間では、イノベーションを起こすための基盤となるマインドセットである「アンラーニング」に焦点を当て、自身の思考の枠組みを再構築する過程を学ぶ。後半の7週間では、イノベーションが生まれる「場」について理解を深める。ビジネスやテクノロジーにとどまらず、公益事業、社会問題、非営利組織、教育といった様々なクロスボーダー社会領域におけるイノベーション事例を学習する。
		グローバル・イノベーションⅡ	○	本科目は、講義科目である。イノベーションが求められる社会的背景や新たな社会変革を生み出す仕組みを、企業や個人の実践事例を通じて理解することを目的とする。また、学生が自らイノベーションを創出するプレイヤーとなるための知識や技能を深めることも目指す。この講義から将来のキャリアに関して、多様な可能性を理解しつつ、自身のキャリアについて考える機会とする。講義形式ではあるが、ディスカッションやリアクションペーパーの作成など、積極的な参加が求められる。
		国際関係論Ⅰ	○	本科目は講義科目である。現代の国際社会における国家間の関係や国際機関の役割を理解することを目的とする。講義では、外交、安全保障、経済協力、環境問題、人権など、多岐にわたる国際関係の基本的な概念と理論を学ぶ。前半では、国際関係の歴史的な背景と主要な理論（リアリズム、リベラリズム、構造主義など）を紹介し、国家や国際機関の役割について理解を深める。後半では、グローバルな課題についての事例分析を行い、国際社会がどのように協力し、対立しているかを考察する。これを通じて、学生は国際的な視野を広げ、複雑な問題に対する分析力を養うことを目指す。
		国際関係論Ⅱ	○	本科目は講義科目である。「国際関係論Ⅰ」で学んだ基礎理論をもとに、より具体的に実践的な国際問題の分析を行う。学生は現代のグローバルな課題について深く理解し、それぞれのテーマに対する国家や国際機関、非国家アクターの役割を探る。講義の前半では、貿易・投資、移民問題、テロ対策、環境保護などの現代的な課題について学び、各国の政策と国際的な協力の事例を分析する。後半では、ケーススタディを通じて国際関係の理論を現実の問題に適用し、複雑な状況を評価し解決策を考える力を養う。学生は国際的な視点から多角的に問題を捉え、より実践的な知識と分析力を高めることを目指す。
		国際経営学概論	○	本科目は講義科目である。国際経営学の概論科目として、企業経営の基礎から国際的な視点での課題解決までを体系的に学ぶことを目的とする。前半は、企業の戦略と組織、管理の基本を学び、理論と実践の両面から経営学の基礎を理解することを目指す。具体的には、経営戦略の概念、組織形態、サステナビリティや環境に配慮した新しい経営戦略と管理方法について学び、企業活動の基礎を身に付ける。後半は、多国籍企業の戦略や組織、リスク管理、文化、知識管理、そしてイノベーションの重要性を探究する。また、国家間の通貨競争や国境を越えた人材管理など、グローバル化に伴う経営課題の理解を深め、CSRや企業倫理も含めた総合的な経営の視点を学習することで、国際的なフィールドで活躍できる基礎力を養う。

専 門 科 目	入 門 科 目	アントレプレナーシップ概論	○	本科目は講義科目である。本科目では、アントレプレナーシップとそれに関連する基礎知識やスキルを学び、実社会での起業や新規事業開発に必要なマインドセットと手法を身につけることを目標とする。ビジネスアイデアの創出、リスク管理、マーケティング戦略、資金調達、ビジネスプランの策定など、起業に必要なプロセスを体系的に学んでいく。また、実際の企業の事例やスタートアップの成功・失敗要因を分析していく。本科目では、個々の学生が自らのキャリア形成において新たな可能性を見出すことにつながるようなチャレンジ精神を涵養することを目指す。	
	演 習 科 目	リサーチ方法論Ⅰ	○	本科目は演習科目である。大学生としての学修の開始に当たり基礎的なアカデミック・スキルを身に付けることを目標とする。調査・研究の対象となる資料を批判的に読解して正しい情報を引き出す力、事実と意見を区別しながら論理的に文章をまとめる力、また本学の図書館からウェブ上の情報まで、様々なリソースを的確に活用する力を身に付ける。更に、それらに基づいて他者と建設的な議論を行うための姿勢も涵養する。調査や議論のテーマは本学科の特性に基づき、国際性、地域性、社会性を重視したものとなる。	
		リサーチ方法論Ⅱ	○	本科目は演習科目である。「リサーチ方法論Ⅰ」と各種入門科目で得たスキルおよび知見を基礎として、本学科のより専門的な学修への導入となる科目である。「リサーチ方法論Ⅰ」を引き継いだ上、調べるための方法論（質的調査と量的調査の違い等）を意識しながら具体的な調査課題へ取り組むことを通して、より高度なアカデミック・スキル、調査能力を身に付けることが本科目の目標である。さらに「Ⅱ」では、調査結果をまとめて情報と主張を分かりやすく正確に伝えるための効果的なプレゼンテーション・スキルを身に付けることも重視する。	
		プロジェクト演習Ⅰ		本科目は演習科目である。学生が自ら課題を発見し、その解決策を探究する力を養うことを目的としている。この科目では、学生はチームを組み、ローカル社会・グローバル社会が直面する多様な課題に対して、調査・分析を通じて具体的なアプローチを設計する。テーマは持続可能なビジネスモデルや社会貢献など幅広く設定され、学生は実際のプロジェクトを遂行するための基礎的なスキルを学修する。前半ではプロジェクト企画や問題解決のフレームワークを学び、後半ではフィールドリサーチやデータ収集を通じて、実際の課題に対する実行可能な解決策を構築する。学生は本科目を通じて、課題発見力、分析力、チームでの協働スキルを高め、プロジェクトマネジメントの基礎を習得する。	共同
		プロジェクト演習Ⅱ		本科目は演習科目である。「プロジェクト演習Ⅰ」で学んだスキルを応用し、より高度で実践的なプロジェクトを遂行することを目指す。この科目では、学生は個々のプロジェクトを進行させ、現実の企業や団体と連携しながら実際の社会課題に取り組む。学生はチームや個人で選定したテーマに基づき、企画立案、実行、評価を行い、イノベーションを生み出すための実践的な経験を積む。特に、本科目の最終目標は、成果物を提示することによりプロジェクトを完了させ、その成果物に対して現場でのフィードバックを受けることである。これにより、学生は現実世界の中で学び、適応力やリーダーシップ、国際的な協働スキルを深化させ、グローバルな課題解決に寄与するための実践的な力を磨く。	共同
		専門演習Ⅰ	○	本科目は演習科目である。本科目では、学生は現実社会の問題や課題に焦点を当て、応用研究の視点から指導教員の専門分野に関連するテーマの探求を開始する。指定された参考文献、講義、ディスカッションを通じて、学生は学際的なアプローチを用い、実践的な問題解決に理論的な概念をどのように応用できるかについて探究する。指導教員の専門分野と関連する社会的、文化的、経済的、制度的な課題を発見し、応用に重きを置いた研究テーマを設定する。最終的には、具体的な問題に取り組むための予備的な研究計画書を作成することを目指す。	

専門科目	演習科目	専門演習Ⅱ	○	本科目は演習科目である。本科目では、「専門演習Ⅰ」で習得した基礎知識を基に、実社会での応用に重点を置いた高度なリサーチ手法を学修する。フィールドリサーチやケーススタディ、ステークホルダー・インタビューといった量的・質的手法を実践的な演習を通じて習得する。本科目では、応用的な問題に取り組むための適切な調査方法の選択、実社会における倫理的配慮の理解、地域社会や産業界のパートナーとの協力で焦点を当てる。本科目の最終的な目標は、学生自らが明確なリサーチクエストを持ち、差し迫った課題に対処するためのデータ収集に基づいた実践的なアプローチを含む研究計画書を完成させることである。		
		卒業研究Ⅰ	○	本科目は演習科目である。本科目では、研究計画書で設定した現実世界の課題に関連するデータや文献の収集に重点を置き、オリジナルな応用研究を進める。学生は、地元組織との連携、現地調査、業界関係者との交流などを通じて、具体的な問題解決に向けた研究を実践的に行う。進捗報告はプレゼンテーション形式で共有し、研究成果や課題、研究がもたらす実際的な影響について考察する。学生同士の協力や指導教員からの助言を受けつつ、地域関係者のフィードバックを活用しながら、研究をさらに発展させる。本科目の最終的な目標は、研究テーマに関するデータ収集とその分析を終え、卒業論文の方向性を確立することである。		
		卒業研究Ⅱ	○	本科目は演習科目である。本科目は、実践的な応用に重点を置きながら、研究結果をまとめ、卒業論文を完成させることを目的とする。指導教員と緊密に連携し、フィードバックを反映させつつ、研究が現実の問題解決に貢献することを目指す。理論的な貢献だけでなく、実践的な価値も備えるよう、双方の関係者に対して研究結果を明確に伝える文章作成に取り組む。また、学生は正式な口頭発表を行い、利害関係者や地域社会のパートナーに対して解決策を提示するシミュレーションを実施する。本科目の終了時には、応用研究が実社会に与える影響を示す最終的な卒業論文を提出するものとする。		
	外国語	英語	Integrated EnglishⅠ	○	本科目は講義科目である。アカデミックおよびビジネスの両分野で求められる英語力を総合的に養成することを目的とする。具体的には、大学講義で用いる英語表現の学習、学術的資料の要約、批判的思考に基づく読解、ディスカッションの基礎スキル、論理的かつ明確な英語表現の習得を目指す。また、ビジネスシーンで用いる基本的な英語表現、交渉や意思決定に必要な表現力や読解力、会議での意見交換や提案のための英語力を習得する。本科目では、留学やグローバルな環境でのインターンシップにおいて実践的に活用できる英語力を育成することを目指す。加えて、TOEFLやTOEICの試験問題にも取り組み、目標スコアの達成を通じて総合的なスキルの向上も図る。	
			Integrated EnglishⅡ	○	本科目は講義科目である。アカデミックおよびビジネスの両分野で求められる英語力を総合的に養成することを目的とし、「Integrated EnglishⅠ」での学びをさらに発展させた内容を学ぶ。具体的には、大学講義で用いる英語表現の学習、学術的資料の要約、批判的思考に基づく読解、ディスカッションの基礎スキル、論理的かつ明確な英語表現の習得を目指す。また、ビジネスシーンで重要な実践的スキルも強化し、特に交渉や意思決定に必要な表現力や読解力、会議での意見交換や提案のための英語力を習得する。本科目では、留学やグローバルな環境でのインターンシップにおいて実践的に活用できる英語力を育成することを目指す。加えて、TOEFLやTOEICの試験問題にも取り組み、目標スコアの達成を通じて総合的なスキルの向上も図る。	
			Integrated EnglishⅢ	○	本科目は講義科目である。本科目は「Integrated EnglishⅡ」での学びをもとに、英語4技能を総合的に向上させることを目的とする。特に、アカデミックライティングやアカデミックリーディングのスキルを重点的に強化し、大学や職場で必要とされる英語の表現力を高める。また、時事的な内容に基づくディスカッションを通じて、クリティカルシンキングや自己表現力を磨く。さらに、ビジネスにおけるネゴシエーションスキルも重要な要素として取り上げ、実践的な交渉力やプレゼンテーション力を向上させることを目指す。これにより、国際的な場面での英語コミュニケーションに必要な能力を養う。	

専門科目	外国語	英語	Integrated EnglishⅣ	○	本科目は講義科目である。本科目は「Integrated EnglishⅢ」での学びをもとに、英語4技能をさらに向上させることを目的とする。特に、アカデミックライティングやアカデミックリーディングのスキルを重点的に強化し、大学や職場で必要とされる英語の表現力を高める。また、時事的な内容に基づくディスカッションを通じて、クリティカルシンキングや自己表現力を磨く。さらに、ビジネスにおけるネゴシエーションスキルも重要な要素として取り上げ、実践的な交渉力やプレゼンテーション力を向上させることを目指す。これにより、国際的な場面での英語コミュニケーションに必要な能力を養う。	
			English for Global CommunicationⅠ	○	本科目は演習科目である。本科目は、国際的な場面における英語での対話力を高めることを目的に、特にスピーキングとリスニングのスキルの向上に重点をおく。学生はペアワーク、少人数グループでのディスカッション、実践的なコミュニケーション演習などを行い、英語での対話に自信をつける。さらに、多様なトピックを探索し、自身の見解を共有し、実際に英語でのディスカッションを行うことで、英語での自己表現や、様々な社会的・職業的状況に対応できる英語力の習得を目指す。	
			English for Global CommunicationⅡ	○	本科目は演習科目である。本科目は「English for Global CommunicationⅠ」での学びをベースに、国際的な場面における英語での対話力をさらに高めることを目的とし、引き続きスピーキングとリスニングのスキルの向上を目指す。学生は、ペアワーク、少人数グループでのディスカッション、実践的なコミュニケーション演習などを行う。さらに、多様なトピックを探索し、自身の見解を共有し、実際に英語でのディスカッションを行うことで、英語での自己表現や、様々な社会的・職業的状況に対応できる英語力の習得を目指す。	
			Advanced EnglishⅠ		本科目は演習科目である。本科目は、アカデミックおよびビジネスの両分野で用いる高度な英語力を養うことを目的とする。日常的なトピックについての会話やディスカッションに基づいたアクティブラーニングを通じて、コミュニケーションスキルを高め、プレゼンテーションやスピーチのための調査、準備、実行の方法を学ぶ。また、チームワークと批判的思考を養うために、共同プロジェクトを行い、ピアフィードバックセッションを通じて、スピーチやプレゼンテーションに必要な実践的なスキルを向上させる。最終的には、アカデミックおよびビジネスの両分野において求められる実践的かつ高度な英語力とスキルを身につけることを目標とする。	
			Advanced EnglishⅡ		本科目は演習科目である。本科目は「Advanced EnglishⅠ」での学びをベースに、アカデミックおよびビジネスの両分野で用いる、より一層高度な英語力を養うことを目的とする。時事的なトピックについての会話やディスカッションに基づいたアクティブラーニングを通じて、コミュニケーションスキルを高め、プレゼンテーションやスピーチのための調査、準備、実行の方法を学ぶ。また、チームワークと批判的思考を養うために、共同プロジェクトを行い、ピアフィードバックセッションを通じて、スピーチやプレゼンテーションに必要な実践的なスキルを向上させる。最終的には、アカデミックおよびビジネスの両分野において求められる実践的かつ高度な英語力とスキルを身につけることを目標とする。	
			Interpretation&Hospitality		本科目は講義科目である。通訳スキルについては、入門レベルの通訳に必要な基礎知識とスキルを習得することを目的とする。日本語と英語の両言語におけるリスニング力やスピーキング力を向上させ、正確かつ迅速に意味を伝える能力を養う。具体的には、逐次通訳の基礎技術、メモ取りの方法、文化的背景の理解などを学び、通訳者として必要な柔軟な思考力と応用力を身につける。また、実際の会話やスピーチを題材にして、双方向の通訳練習を行い、実践的なスキルを磨くことを目指す。また、文化的背景に基づくコミュニケーションの重要性を学び、ホスピタリティ業界において必要とされる英語コミュニケーション能力の習得も目指す。	

専門科目	外国語	英語	Active English		本科目は講義科目である。本科目は、英語力を高めると同時に、メンタル・フィジカルの強さを養い、実社会で用いるチームビルディングとリーダーシップ能力の習得を目指す。理論的な学びとインタラクティブなアクティビティを組み合わせることで、従来の教室の枠を超えたダイナミックな環境で英語を使い、スピーキングとリスニングのスキルを向上させ、さまざまなリーダーシップ・スタイルを探究し、多様なチームにおける効果的なコミュニケーションを育む。主なトピックは、チーム・ダイナミクス、健康、メンタルとフィジカル、問題解決法、文化認識などがあり、またグループ・プロジェクト、ロールプレイング、教室外での活動なども取り入れる。教室での授業においては、オンライン教材、配布資料、マルチメディア・プレゼンテーション、インターネット・リサーチなど、さまざまなリソースを活用し、実践的な授業の際は、スポーツ施設や体育館、またはキャンパス外で行われる。	
			人類学	○	本科目は講義科目である。世界各地の多様な民族や地域の文化、社会の基本構造を探究し、異なる文化、慣習、価値観、視点を比較することで、より深い文化的洞察を得る。また、講義を通じて基本的な人類学の理論や概念を学び、ディスカッションやケーススタディにより他文化と自文化を分析・比較する力を養う。学生は、文化の相対性を理解し、異文化間の共通点や相違点を見つけ出すことで、世界一般および自分自身の社会に対する新しい視点を得ることができる。最終的には、異文化理解のスキルを身につけ、グローバルな視野を持つための基盤を築くことを目標とする。	
	基幹科目	国際教養	比較地理学	○	本科目は講義科目である。前半では地理学のうち、特に自然地理学・人文地理学・都市地理学の観点から世界を俯瞰的にとらえる。過去の地理的世界観の確認の後、現代の地理学の基本に基づいて水陸分布、地形、気候の成立要因、産業と土地利用、都市の発生、立地と類型、農村との関係等を理解する。後半では特定地域（日本、オセアニア、アジア、ヨーロッパ、アフリカ等）の地誌を取上げ、「地域研究」等、本学科のより専門的な学びの基礎とする。両者を合わせ、地理的視点から地域社会をより深く理解し分析する力を育成することを目標とする。	
			国際政治学	○	本科目は講義科目である。国際社会における国家間の政治的関係や国際機関の役割を学ぶことを目的とする。講義では、国際政治の基本的な理論や概念を学び、国家の外交政策、国際安全保障、グローバルガバナンスなど、国際的な政治現象を分析する力を養う。前半では、国際関係理論（リアリズム、リベラリズム、構造主義など）を通じて、国家の行動や国際秩序の形成について理解を深める。後半では、地域紛争、平和維持活動、国際協力などの具体的な事例を用いて、現代の国際政治の動向と課題を考察する。これにより、学生はグローバルな視点で複雑な国際政治の構造を理解し、多角的な分析力を身につけることを目指す。	
			国際法	○	本科目は講義科目である。授業は基本的には講義形式で行うが、一部ディスカッションなどアクティブ・ラーニングを組み込む。本科目の学修目的は、国内法と国際法との差異を理解し、国際公法に関する一般原則に関する基礎的な知識を習得することである。国内法と比較したときに国際法の規範的特質、国際法の形成と発展の歴史と現代的な意義、国際法の規律が及ぶ主体の種類と範囲、条約・国際慣習法・法の一般原則など国際法の法源とその特質について学修した上で、国際法規の効力と適用関係や、国際法と各国の憲法・法律などの国内法の関係、国際司法裁判所などの国際紛争の解決手続についての基礎的な知識の習得を目指す。	
			国際経済学	○	本科目は講義科目である。本科目では、グローバリズムと呼ばれる国際経済の質的な変化について理論的・歴史的に解き明かしていく。特に経済的グローバリズムに関しては、大きな矛盾と問題点をはらんでおり、近年の日本国内の格差、ワーキングプアや就職難などの問題は資本主義としてのグローバリズムの矛盾が現れてきているものである。その矛盾は日本だけでなく世界中で現れており、それらに対する様々な取組みが世界で開始されている。本科目では、連帯経済やSDGsなどの経済活動を通じた相互発展型の取り組み等を紹介し、その可能性について考え、様々な社会的事象から経済的な課題を見出すことができるようになることを目標とする。	

専門科目	基幹科目	国際経営	戦略マネジメント	○	本科目は講義科目である。本科目では、企業が持続的に新たな価値を創出するために必要な経営戦略を理解し、実践的に活用する知識を得ることを目標とする。企業がどのように外部環境や内部要因を分析し、パーパスや経営理念を実現するための戦略を策定するか、経営戦略の主要な理論とフレームワークの学習、事例研究を通じて学んでいく。具体的には、PEST分析やFive Forces分析、SWOT分析などの環境分析のほか、リーダーシップ、ビジネスエコシステムなど、戦略策定に必須な要素を網羅しながら講義を展開していく。	
			プロジェクト・マネジメント論	○	本科目は講義科目である。プロジェクトとは、特定の使命を持ち、限られた期間と資源の中で成果を目指す価値創造の活動である。プロジェクトには、明確な目的、開始と終了の期限、限られた資源、達成すべき成果が設定されており、成功・失敗がはっきりと評価される特徴がある。プロジェクト・マネジメントは、プロジェクトの成功を目指して、関係者の期待を満たすために最適な知識や技術、ツールを活用する手法である。本科目では、プロジェクト・マネジメントの基本概念を学び、企業や組織での価値創造に役立てる実践的なスキルを身につけることを目的とする。	
			起業ケーススタディー	○	本科目は講義科目である。成功するスタートアップと失敗するスタートアップの背後にある要因を探究し、実社会の各ケースの読解・分析・発表を通して、マーケットフィット、リーダーシップ、イノベーション、ビジネスモデル、財務管理など、起業の成果に影響を与える主要な要因を分析する。成功と失敗の両方を学ぶことで、学生は起業における課題と可能性を総合的に理解し、批判的思考を養うことを目指す。ケーススタディーの読解・分析・発表を通して、どのような戦略や意思決定が成果に結びついたかを考察し、実際の事例に基づいた実践的な教訓を獲得する。この科目では、ビジネスチャンスとリスクを評価するフレームワークを学び、最終的に起業家として成功するための洞察力を得て、起業の立ち上げや拡大に必要な方法を習得することを目指す。	
			リーダーシップ論	○	本科目はアクティブラーニングを用いた講義科目である。リーダーシップの理論と実践的なスキルを学び、個人や組織が目標達成に向けてどのように行動し、他者を導くかについて理解を深めることを目的とする。まず、変革型リーダーシップ、サーバントリーダーシップ、シチュエーションアルリーダーシップなどの理論を学び、それぞれの特徴や応用方法について議論する。次に、グループ活動やケーススタディを通じて、実践的なリーダーシップスキルを身につけることを目指す。授業では、リーダーシップが組織やチームに与える影響や、自己理解を深めるためのワークショップも行う。最終的に、学生はリーダーとしての自己の強みと課題を認識し、効果的にチームを導くためのスキルを身につけることが期待される。	
			国際ビジネス	○	本科目は講義科目である。本科目では、国際ビジネスの基礎と、その背景にある政策やプロセスを学ぶ。ビジネスは「利益を上げる企業や活動」と定義され、国際ビジネスはこれを国境や地域を越えて行うものである。グローバリゼーションの進展により、国際ビジネス環境は急速に変化し、テクノロジーとコミュニケーションの進歩が企業の行動様式を再構築してきた。本講義では、マクロおよびミクロ経済の諸要因を復習し、国際市場で必要な概念や語彙を習得する。また、企業が使用するツールに精通し、組織が求めるスキルを実践的に学ぶことで、現代の国際ビジネスで成功するための応用スキルを身につける。	
	発展科目	国際教養	多文化共生フィールドワーク		本科目は講義形式の科目である。本科目では、多文化共生に関する知識を深め、グローバル化するクロス・ボーダー社会に適応する力を養うことを目指す。具体的には、海外の文化や多様性、異なる考え方を学び、それらが日本文化とどのように異なり、なぜそうなっているのかを理解する。また、異文化コミュニケーションの理論と実践を重視し、文化的に多様な職場や環境で効果的にコミュニケーションをとる方法を議論・検討する。授業では、講義、ディスカッション、フィールドワークを通じて、様々な状況でのコミュニケーション事例を分析し、実際に応用する力を養う。個人やペア、グループでプロジェクトを行い、その結果を発表する機会も設ける。最終的には、異文化間での理解と協力を促進し、多文化社会における共生のあり方を実践的に探求する力を育成することを目標とする。	

専門科目	発展科目	国際教養	ジャパン・スタディーズ		本科目は講義科目である。日本の文化、習慣、社会制度に関する知識を深め、それらを英語で表現するスキルを習得することを目的とする。具体的には、日本の歴史や宗教、家族制度、職場文化、現代の社会問題など、幅広いテーマを扱い、これらを英語で説明・議論できる能力を養う。講義では、各テーマに関する基本的な知識を学び、プレゼンテーションやディスカッションを通じて、実践的な英語表現力を強化することを目指す。	
			都市環境フィールドワーク		本科目は講義科目である。都市は物理的な人工環境や自然環境、そこでの人間の諸活動が絡み合った複雑な対象であり、それを総合的に捉えるのは簡単なことではない。しかし都市の特定の側面であれば、それを理解するための有力な方法がいくつか提案されている。本科目では、都市の景観を分析対象とし、物理的な人工環境の形成を規制する法的な基本を確認した後、20世紀後半に特に東京の都市景観の分析のために提案された手法を学び、それを用いて札幌を中心とした我々にとって身近な都市環境の特徴を明らかにし、更に地域の魅力を発見していく。それらを踏まえ、最終的には持続可能な都市づくりに貢献するための基礎的な力を養うことを目標とする。	
			国際政策論		本科目は講義科目である。国際的な政策分野を幅広く学び、専門知識と政策的思考力を養うことを目的とする。国際公共政策の基礎理論や歴史、制度、資源管理などを取扱い、各授業では、持続可能な開発、国際安全保障、貿易・経済、人権、保健医療など多様な政策分野にわたる国際的課題について考察し、国際公共政策への実践的理解を深める。現代の国際社会が直面する公共政策上の課題を総合的に理解し、国際的な政策課題に対応できる能力を養う。	
			国際人権法		本科目は講義科目である。授業は、ディスカッションを中心としたアクティブ・ラーニングの形式で行う。本科目の学修目標は、各国の憲法で保障されている憲法上の人権に加えて、国際人権が保障されていることの意義を理解するとともに、世界人権宣言や国連人権規約など人権に関する一般的な国際的な取り決めと、人種差別撤廃条約・女子差別撤廃条約・障害者権利条約など個別領域における人権条約の内容に関する知識を習得することである。その前提として、国際人権の歴史とその根拠、国家や国際機関等の役割と責任の分担等についても学修する。また、個別領域における国際人権の理解を深めるために、現在世界で生じている具体的な人権問題を取り上げ、それぞれの問題の背景を十分に理解した上で、人権救済のあり方など問題解決の方法について議論する。	
			国際平和学		本科目は講義科目である。本科目では、平和学の概要や歴史、そして特徴について講義を進めていく。そのなかで、私たちの身近にある社会的な諸課題から地球的問題群と呼ばれる全人類が直面する課題までを幅広く考える機会を持つ。平和の獲得のためには、諸問題を解決するために学際的なアプローチから検討される必要があることから、本学科で積み上げてきた学びを踏まえて、一人でも多くの学生が問題意識を持ち、それぞれの平和の課題を深めることが出来るような講義を展開していく。そして、現在の平和学の到達点と課題について、自分なりに論じることが出来るようになることを目標とする。	
			国際機構論		本科目は講義科目である。国際機構の役割と機能を理解し、国際社会における開発、貿易、経済協力に果たす役割を探究する。国際連合（UN）、世界貿易機関（WTO）、国際通貨基金（IMF）、世界銀行（WB）など、主要な国際機構の歴史的背景、組織構造、活動内容を学び、これらの機構が経済成長や持続可能な開発にどう貢献しているのかを分析する。特に、途上国支援、グローバルガバナンス、開発政策の策定と実行における役割に注目し、国際機構と各国政府、非政府組織（NGO）、民間企業との協力関係を考察する。授業では、理論的な知識を学びつつ、実際の事例を基に国際機構が直面する課題とその解決策を議論する。最終的には、国際機構の機能を理解し、現代のグローバル課題に対して効果的な対応策を提案できる力を育成することを目指す。	

専門科目	発展科目	国際教養	開発経済論		本科目は講義科目である。本科目では、発展途上国と呼ばれる国々の経済発展のプロセスを基礎的な理論と事例を交えて学ぶことを目的とする。アジア地域が貧困削減に成功してきた一方で、サハラ以南アフリカでは厳しい貧困がなかなか減少しないという地域差はあるものの、世界の貧困は全体として減少の傾向にある。しかし、COVID-19の流行以来、世界の貧困は増加している。厳しい貧困に苦しむ人々は飢えにさらされ、衛生的な住居を持たず、保健衛生や教育などのサービスを十分に受けることができていない。これらの現状を踏まえ、本科目ではこうした貧困の解決のためには何が必要かをテキストに沿って学ぶ。そして、発展途上国の人々が抱える貧困問題の現状と、開発経済論の基本的な理論を学び、学生自らがこれらのことについて説明できるようになることを目標とする。	
			アジア経済論		本科目は講義科目である。世界人口の多数を占めているアジア各国の経済関係が一層深まる中で、アジア経済に対する関心は非常に高まっている。本科目では、急成長するアジア地域の経済を中心に、世界経済におけるアジアの重要性や日本との関係を学ぶことを目的とする。アジア経済の現状や成長要因、地域統合や貿易政策、グローバル化の影響などを、事例を交えて解説し、日本が果たすべき役割について考察する。この授業を通して、アジア経済と共に世界の経済情勢への理解も深め、グローバルな人材を目指して多様な知識の獲得を目指す。	
			フェアトレードⅠ		本科目は講義科目である。フェアトレードの基本的な概念を理解し、実践的な活動を通じてその意義や課題を学ぶことを目的とする。学生はフェアトレードの歴史、仕組み、影響について学びながら、具体的なプロジェクトに取り組む。前半では、フェアトレードがどのように生産者の生活向上や持続可能な発展に貢献しているかを理論的に学び、実際のフェアトレード認証の基準やプロセスについて理解を深める。後半では、フェアトレード製品の市場調査やプロモーション活動を行い、実際にフェアトレードの仕組みがどのように機能しているかを実感する。これにより、学生は持続可能なビジネスモデルの理解を深め、社会的責任を果たすビジネスの実践に必要なスキルを習得することを目指す。	
			フェアトレードⅡ		本科目は講義科目である。「フェアトレードⅠ」から継続して、フェアトレードの基本的な概念を理解し、実践的な活動を通じてその意義や課題を学ぶことを目的とする。学生はフェアトレードの歴史、仕組み、影響について学びながら、具体的なプロジェクトに取り組む。前半では、フェアトレードがどのように生産者の生活向上や持続可能な発展に貢献しているかを理論的に学び、実際のフェアトレード認証の基準やプロセスについて理解を深める。後半では、フェアトレード製品の市場調査やプロモーション活動を行い、実際にフェアトレードの仕組みがどのように機能しているかを実感する。これにより、学生は持続可能なビジネスモデルの理解を深め、社会的責任を果たすビジネスの実践に必要なスキルを習得することを目指す。	
	国際経営	国際経営	組織行動学		本科目は講義科目である。組織行動学は、組織内での人間の心理や行動を研究し、目標の達成に向けた効果的なマネジメント方法を探る学問である。本科目では、組織行動学の基礎概念と企業における組織・人材マネジメントに関する理論を学び、今日的な課題を検討する力を養うことを目指す。講義では、個人と組織双方の視点から、モチベーション、リーダーシップ、コミュニケーション、組織文化が人々に与える影響について考察する。また、ワークエンゲージメント、集団での問題解決、意思決定、多様性、キャリア開発など幅広いテーマに触れ、実際の組織マネジメントに必要な判断力とスキルを身につける。	
			比較文化組織行動学		本科目は講義科目である。組織行動学を比較文化の視点から包括的に探究し、文化的要因が組織内の行動やあり方にどのような影響を与えるかを理解することを目的とする。多国籍企業における採用・人事、仕事内容、パフォーマンス評価基準、仕事へのモチベーションや態度、チームワーク、リーダーシップ、社内での対立や交渉といった主要なテーマを取り上げる。最先端の研究やケーススタディを通じて文化が組織に与える影響を深く理解し、それを実際の組織環境にどのように応用できるかを学ぶ。最終的に、グローバルな労働力を効果的に管理し、リードする能力の向上を目指す。	

専門科目	発展科目	国際経営	ビジネス倫理と法		本科目は講義科目である。本科目では、経営者として、管理者として、また従業員として、企業経営に携わる者が、企業倫理やコンプライアンスの必要性を認識すること、そして、事業活動を行っていくうえで、倫理的又は法的な問題が生じた場合に、予めそれを防止したり、対応したりするための能力を身につけることを目標とする。企業倫理とは何か、企業がなぜ倫理的な行動を求められるのか、そしてどのような行動が倫理的であると言えるのか、さらには法令遵守を含む倫理的行動について理解を深める。	
			リスクマネジメント		本科目は講義科目である。本科目では、個人や家庭、企業、官公庁など様々なシチュエーションにおけるリスクを取り上げ、それらを予測し回避・低減する方法や、リスクの選択と判断基準など、リスクマネジメントに関する理論を学ぶ。前半では伝統的なリスク分類に基づくリスクマネジメントの基本理論を体系的に学ぶ。後半では、ビジネスリスクマネジメントや全社的リスクマネジメント（ERM）など、より現代的なアプローチに焦点を当てて講義が展開する。本科目を通じて、リスクの概念を深く理解し、評価・算定の手法を習得し、実際のリスクに対応するための知識を身につける。	
			観光経営学		この科目は講義科目である。本科目では、観光産業とホスピタリティ産業の基礎を体系的に学ぶことを目的とする。学生は観光の意味や定義、産業の歴史的背景、また観光産業の特徴を理解し、効果的な運営に必要な基礎知識を身につける。さらに、観光商品や顧客サービスの最新トレンド、専門的な概念、観光がもたらす社会的・文化的・経済的影響についても学ぶ。この講義では、観光ホスピタリティ産業の基本的なマネジメントについても取り上げる。学生は将来のキャリアの選択肢を考えるための視点を得ることができ、観光産業のさまざまな側面を深く理解することができる。実践的な知識を養うことで、将来的なビジネスシーンでの活躍に繋がる能力を育成する。	
			イベントマネジメント演習		本科目は演習科目である。本科目では、イベントマネジメントの基本的な知識と、そこでの企業や人々の役割を重点的に学ぶ。イベントや業界の歴史や現状について学び、さらに、イベントの種類や業界の規模、関連用語について理解を深める。イベントの社会的、経済的、環境的影響や、観光ホスピタリティ産業における役割、個人や企業の価値創造への寄与、イベント・マネージャーの責任などについても学び、キャリア分析も行う。演習の中では、実際にイベントを計画し、マネジメントすることも行う。	
			コーポレート・コミュニケーション		本科目は講義科目である。組織経営の基本的な機能であるパブリック・リレーションズ（広報）の基礎文献や具体的なケーススタディを用い、現代社会で広く浸透しているコミュニケーション手法としての広報の役割を、実務的、歴史的、理論的観点から探究する。講義を通じて、学生は広報の基本的な役割とその活動領域を理解し、日本や他の先進国における広報の歴史的背景から現在に至るまでの実践についての基礎知識を習得することを目指す。	
			国際マーケティング		本科目は講義科目である。21世紀初頭のグローバリゼーションとデジタル変革の波は、企業や組織が国際的な市場においてどのように価値を提供し、製品を販売するか、その方法を大きく変化させた。この科目では、マーケティング理論の過去、今日、未来を見直し、様々なマーケティング・チャネルの有効性を分析し、国境を越えたマーケティングのこれまでの変容を考察していく。この科目の目的は、実践的な課題や理論学習を通じて、学生に基本的な市場調査方法を身に付け、製品や組織の価値を市場に対して効果的に売り出す方法を身に付けてもらうことにある。	

専門科目	発展科目	国際経営	会計学Ⅰ		本科目は講義科目である。企業は、企業内外の利害関係者（ステークホルダー）の意思決定に役立つよう財務諸表と呼ばれる報告書を作成し、公表する。そのために企業が行う一連の行為が会計であり、簿記（とくに複式簿記）は、企業が行う日々の取引を認識、測定、記録し、財務諸表を作成するため技術である。本科目では、会計情報を生成するために利用される複式簿記の基本的な仕組みと、初学者が理解するために必要な最低限の会計・簿記知識、簿記処理を紹介する。企業会計の目的と複式簿記の基本的仕組み（計算メカニズム）についての基礎知識を身に付け、企業が公表する会計情報（貸借対照表・損益計算書）の成り立ちを理解することを目標とする。	
			会計学Ⅱ		本科目は講義科目であり、財務会計の基本的理解を目的とする。財務諸表は損益計算書や貸借対照表といったいくつかの計算書から成り立っているが、これらの計算書は日々の取引を表した記録が分類集計されて得られる。したがって、企業の取引がどのように記録され、財務諸表としてまとめられていくのかを知ることが、財務諸表を通じて各種の意思決定がなされている経済社会にとって、大変重要なことである。本科目では、会計情報が社会に及ぼす影響について、企業経営との観点から考察していく。そして、個別企業の財務諸表を概略的に読み取ることができるようになることを目標とする。	
			多国籍企業リーダーシップ論		本科目は講義科目である。本科目では、リーダーシップの多面的な理論と実践を学ぶ。ロナルド・レーガンが述べたように、「最も偉大なリーダーとは、人々に最も偉大なことをさせる存在」であり、単なる指示を超えて、ビジョンを持ち、目標を設定し、グループを動機付けて導く力が求められる。リーダーシップは生まれ持った特性だけでなく、学びと経験によって育成・強化できるものである。本講義では、リーダーシップ理論、主要なリーダーの行動例、意思決定やチームビルディング、異文化コミュニケーションなどのリーダーシップスキルを探究する。また、国際ビジネスにおけるケーススタディを通じて、ディスカッションやチームでのリーダーシップ問題の解決に取り組む。	
			グローバル・ビジネス・アクターズ		本科目は講義科目である。本科目では、グローバル・ビジネスにおける主要なプレイヤー（政府、公的企業、民間企業、個人など）の影響について探求する。これらのプレイヤーには、広く知られた存在から無名のものまで含まれ、それぞれが独自の影響力を持つ。学生は、特に企業や個人に焦点を当て、その歴史や組織、ビジネス界での具体的な行動やイノベーションについて学ぶ。また、これらの学びを基に、リサーチ、批判的分析、オープンソース情報のプレゼンテーションなど、実践的なビジネススキルを養う。	
			アントレプレナーシップ演習		本科目は演習科目である。本科目では、実践的なビジネスプランニングを想定しているため、学科で積み上げてきた多様な知識やスキル、経験を前提としている。演習では、プランニングに有益な各種の分析フレームワークやスキルの実践、プランニングのための分析・検討・立案をくり返すことによるプラン品質向上、ビジネスプランを実行するにあたって必要な機会やリソースを獲得するためのステークホルダーに向けた資料の作成など、実現可能性を意識した他者に対する強い説得力を有するビジネスプランの策定を行う。本科目では、一連のビジネスプロセスを盛り込んだプランニングにグループで取り組むことを通して、実社会での起業や新規事業開発に必要な実践力を身につけることを目標とする。	
			変革マネジメント		本科目は講義科目である。本科目では、ビジネスにおけるイノベーションの失敗要因と、成功するためのチェンジ・マネジメントの理論と実践を学ぶ。調査によると、変革を起こそうとしたことの約4分の3は失敗に終わるか、途中で放棄される。その原因としては、コミュニケーション不足、リーダーシップの欠如、不十分な実施努力などが挙げられる。これらの失敗を回避するためには、多様な要因を総合的に分析することが求められる。本講義では、チェンジ・マネジメントの主要な理論や体系を学び、実際のビジネス事例（ケース・スタディ）を通じて、チェンジ・マネジメント・プログラムの設計に必要なスキルを習得する。受講生は、具体的なチェンジ・マネジメントの問題に取り組み、最終的にはグループでチェンジ・マネジメントプランを設計し、実践的な解決策を模索する。	

専門科目	イノベーション科目	イノベーション史	○	本科目は講義科目である。人類の発明の複雑な歴史を探り、発明とイノベーションの違いを理解し、成功を収めた技術革新だけでなく、飛行船や核分裂のように期待外れに終わった発明や、鉛添加ガソリンやDDTのように有害な結果をもたらした発明のケーススタディも扱い、歴史的・科学的な観点から分析する。さらに、持続可能性や国際健康問題といった21世紀の深刻な課題に対処するために緊急に必要とされる発明についても検討する。学生はこの科目を通じて、技術や社会進歩の可能性とリスクを理解し、未来のイノベーションとその社会的影響について批判的に考察する力を養うことを目指す。	
		クリエイティビティの心理	○	本科目は講義科目である。創造性とは、既存の要素や情報を新たな視点で捉え、新しい組み合わせを作り出し、異なるものの間に関連性を見出す能力を指す。創造性とイノベーションは、起業家が新事業を立ち上げる際、フィランソロピストが新たな社会貢献事業を立ち上げる際、アーティストが新たなビジョンや技法を生み出す際など、さまざまな分野で発揮される。本科目では、創造性とイノベーションに関わる認知パターンや個人差、社会的環境について学術的な視点から理解を深めるとともに、学生自身の創造性とイノベーションを向上させる方法を考察する。創造性とイノベーションを心理学的現象として捉え、ビジネス、慈善活動、芸術といった多様な分野でそれらを探究し、実践を通じて理解を深める。	
		イノベーション・マネジメント論	○	本科目は講義科目である。本科目では、技術や製品、サービス、事業におけるイノベーションに関する多様な政策や戦略を学び、イノベーション・マネジメントの基礎理論や概念を整理することを目的とする。技術開発から事業化、普及に至るプロセスや課題、戦略を中心に、実際の事例やデータを用いて理解を深める。また、オープン化やビジネス・エコシステム、プラットフォーム、国際標準化、知的財産など、現代のイノベーションにおける重要なトピックも取り上げ、その基礎理論を紹介する。これらの学びを通じ、イノベーション戦略とマネジメントの基本的な考え方を修得することを目指す。	
		世界のイノベーションリーダー	○	本科目は講義科目である。本科目では、イノベーションのプロセスとその歴史的背景を探究する。イノベーションとは、新しいアイデア、方法、製品、サービスを導入し、大幅な改善や価値をもたらすプロセスであり、現代のテクノロジーとグローバルな相互接続性により、革新はかつてない速度で世界中に広まっている。しかし、この進展には数千年にわたる歴史があり、数多くのイノベーションが積み重なった結果、今日の文明が築かれている。本講義では、世界を変えた重要なイノベーションを推進したグローバル・イノベーション・アクターや、近代および歴史上の人物、組織、その取り組みを事例として学ぶ。学生は、これらのアクターの歴史や具体的な行動、現代社会への影響を学び、さらにイノベーションの普及に必要な要因や特性を分析する。リサーチや批判的分析、オープンソース情報を用いたプレゼンテーションなど、応用的なスキルを実践する機会も提供する。	
		ソーシャル・イノベーション	○	本科目は講義科目である。現代社会では、経済、社会、環境など多方面で問題や矛盾が拡大しており、持続可能な社会の実現に向けて新たな価値を生み出すソーシャル・イノベーションが必要とされている。この講義では、こうした課題に対する意識を深めるとともに、ソーシャル・イノベーションを担う社会企業家や社会的企業について考察し、関連する課題を研究することを目的としている。また、ビジネスの手法を活用して社会的課題に取り組む「ソーシャル・ビジネス」について、具体的な事例を検証し、その効果や意義を理解する。	
		フィランソロピーと非営利セクター	○	本科目は講義科目である。米国および国際的な視点から非営利セクターとフィランソロピーを学際的に探究する。現代の非営利セクターを形成する革新、議論、変革を掘り下げ、市民社会、経済、公共生活におけるその役割を考察する。非営利組織の急速な拡大、非営利・民間・公的セクター間の相互作用、慈善組織に関わる政策論争などをテーマに扱う。また、コミュニティ開発におけるベストプラクティスや慈善事業にまつわる論争、革新も取り上げる。ボランティア活動に関わる学生や非営利団体でのキャリアを目指す学生、慈善活動や社会問題に関心を持つ学生向けに設計された科目である。	

専門科目	イノベーション科目		サステナビリティ論	○	本科目は講義科目である。本科目では、サステナビリティ(社会の持続可能性)と倫理の重要性を理解する。また、現代ビジネスにおいて、これらを実現するためのエシカル・ビジネス(倫理的なビジネス)を創造するアントレプレナー(起業家)、イントレプレナー(社内起業家)、そして社会と共生する組織、ビジネスを目指すマネージャー、リーダーに必要な視野、スキルの基礎を培うことを目的とする。なお、本科目では、上記の理解に欠かせない CSR(企業の社会的責任)、ソーシャルビジネス、SDGs(持続可能な開発目標)、コーポレートガバナンスなども取り扱う。	
	地域研究科目	地域研究	地域研究 A	○	本科目は講義科目である。日本の自然・地理・歴史・経済・文化的な側面を学ぶことを目的としており、これを通じて日本に関する知識を深める。また、学生は個人またはグループで日本に関連した研究テーマを設定し、調査を進めていく。テーマは各自が興味を持つ地域の問題や文化的特徴などから選び、学んだ知識を活かして深く掘り下げていく。研究成果はクラス内で発表され、他の学生と共有することで意見交換を行い、理解をより深めることが求められる。	
			地域研究 B	○	本科目は講義科目である。オセアニア地域の自然・地理・歴史・経済・文化的な側面を学ぶことを目的としており、これを通じて地域に関する知識を深める。また、学生は個人またはグループでオセアニアに関連した研究テーマを設定し、調査を進めていく。テーマは各自が興味を持つ地域の問題や文化的特徴などから選び、学んだ知識を活かして深く掘り下げていく。研究成果はクラス内で発表され、他の学生と共有することで意見交換を行い、理解をより深めることが求められる。	
			地域研究 C	○	本科目は講義科目である。アジア地域の自然・地理・歴史・経済・文化的な側面を学ぶことを目的としており、これを通じて地域に関する知識を深める。また、学生は個人またはグループでアジアに関連した研究テーマを設定し、調査を進めていく。テーマは各自が興味を持つ地域の問題や文化的特徴などから選び、学んだ知識を活かして深く掘り下げていく。研究成果はクラス内で発表され、他の学生と共有することで意見交換を行い、理解をより深めることが求められる。	
			地域研究 D	○	本科目は講義科目である。ヨーロッパ地域の自然・地理・歴史・経済・文化的な側面を学ぶ。学生はヨーロッパ地域について研究するテーマを設定し深く掘り下げ、クラス内で発表する。現代の生活文化は世界中で共通性の高いものとなっているが、それは近代のヨーロッパの人々の生活文化が言わば世界標準として受け入れられた結果である。この科目では、ヨーロッパ地域の基本的な特性の理解を踏まえ、それが世界へ与えた影響の是非について評価する力、さらにそれと比較し学生自身が生まれ育った地域の文化の独自性を理解する力を身に付けることを目標とする。	
			地域研究 E	○	本科目は講義科目である。アフリカ地域の自然・地理・歴史・経済・文化的な側面を学ぶことを目的としており、これを通じて地域に関する知識を深める。また、学生は個人またはグループでアフリカに関連した研究テーマを設定し、調査を進めていく。テーマは各自が興味を持つ地域の問題や文化的特徴などから選び、学んだ知識を活かして深く掘り下げていく。研究成果はクラス内で発表され、他の学生と共有することで意見交換を行い、理解をより深めることが求められる。	

専門科目	地域研究科目	地域研究特論	観光と北海道研究		本科目は講義科目である。北海道の地域特性を観光の視点から学ぶ。広大な自然や独自の文化、歴史、食文化を持つ北海道の観光資源を理解し、地域経済や社会への影響を考察する。自然環境や地理的条件、アイヌ文化や縄文遺跡などを学びながら、気候変動や環境保全との関連も探る。また、過疎化や観光資源の持続可能性、外国人観光客の増加による課題を批判的に検討し、持続可能な観光の取り組みを学ぶ。最終的に学生はグループに分かれ、観光による地域活性化の可能性と観光の持続可能性の視点から、北海道の観光の1つの事例について深く掘り下げ、クラス内でプレゼンテーションを行う。	
			アイヌとマオリ研究		本科目は講義科目である。本科目は、民族の比較研究から北海道・ニュージーランド地域を研究しつつ、異文化間の共存についての理解を深めることを目的としている。アイヌとマオリの歴史、文化、現在の状況を比較することで、学生はこれら2つの文化と過去の歴史が今日までどのような影響を与えてきたかについてより深く理解する。講義のほか、学生はペア及びグループベースの研究プロジェクトによるアクティブラーニングを行う。また、オンラインツールを利用して必要なマオリとアイヌの語彙を学び、さらなる調査の基礎を整えるとともに、先住民文化に対する文化的共感と理解を深めていく。	
			アジア文化論		本科目は講義科目である。本科目は、日本をはじめとするアジアの諸地域の社会・文化について知り、理解を深めることを目的とする。私たちは日本をはじめとするアジア地域の一員として暮らしているが、広いアジア地域の中で観光客が行かないローカルな場所が存在する。ローカルはグローバルの反対で、世界中どこにでも浸透しているモノや価値観とは異なるその土地固有のモノや価値観を指す。本科目では、アジア各地のローカルなモノ・価値・行動様式を理解していくことを通して、日本以外のアジア他地域への理解を深め、自身のアジア地域構成員としての位置づけを再確認することを目標とする。	
			ヨーロッパ文化論		本科目は講義科目である。ヨーロッパ地域の文化的な特性を芸術を通して学ぶ。特に、各時代の芸術作品が、その時代の政治・経済・生活・思想をどのように表現しているのかに注目する。古代における宗教・スポーツ・政治、中世における都市共同体と職業組合の発展、近世における職業組合とアカデミーの対立、近代における工業、それらが芸術とどのように関わっていたのかを考察する。それらを踏まえてヨーロッパ文化への理解を高めること、更に、学生達に、芸術文化が社会を活性化させる可能性を認識させることが本科目の目標である。	
	留学・国際共修科目	Global Study Experience・Abroad・Persees	Intercultural Communication	○	本科目は講義科目である。この科目は、異文化間での効果的なコミュニケーションを理解し、実践するためのスキルを身につけることを目的とする。前半7週間では文化がコミュニケーションに与える影響や、異文化における価値観や行動パターンの違いを学ぶ。ケーススタディやディスカッションを通じて、文化的背景が異なる人々とのコミュニケーションの場面において直面する課題や、その解決策を探る。後半7週間では、異文化での実践的なコミュニケーション方法を学ぶ。具体的には、異文化適応に関する理論を基礎に、誤解を防ぐ方法や対話を促進するためのテクニックを学び、異文化間での共感や協力を促進する方法を探索する。	
			Global Skills Training	○	本科目は講義科目である。学生が独力でテーマ別の留学やGlobal Experienceなどを企画できることを目標とする。科目の前半では異文化環境への適応力を強化する。学生は海外での生活準備として、目的地の文化調査やカルチャーショックへの対処法を学び、現地でのリスク管理についても理解を深める。後半は現地の異文化トレーナーと連携し、留学やインターンシップ等の企画を進め、現地企業との協力を通じて実践的なプロジェクトに取り組む。チームで企画の立案から現地との交渉を主体的に行い、SNSを活用してビジネスパーソンや大学教員へのインタビュー依頼を行う。これにより、教員に頼らず独力で、英語を駆使しプロジェクトを推進するスキルを身につけることを目指す。	共同

専門科目	留学・国際共修科目	Global Experiences	Study Abroad A		本科目は実習科目である。学生は個別のテーマに基づいた留学を通じて、イノベーションに必要な知識、マインドセット、そして将来に繋がるネットワークを得ることを目的とする。自ら設定したテーマに基づき、留学先での学びをデザインし、実践する。テーマはビジネス、起業、ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)、テクノロジー、ホスピタリティ、社会貢献など多岐にわたり、現地でのプロジェクトや交流を通じてグローバルな視点を養う。また、国際的な協働力や問題解決能力を強化し、グローバルな環境でのプロジェクトマネジメントを実践的に学ぶ。帰国後のレポートやプレゼンテーションなどの課題も含めて評価し、留学先での学びとして60時間認められた場合、2単位を認定する。なお、一度の留学先での学びとして認められる時間が60時間を超える場合は、「Study Abroad B～D」を時間数に応じて同時に修得できる。	共同
			Study Abroad B		本科目は実習科目である。学生は個別のテーマに基づいた留学を通じて、イノベーションに必要な知識、マインドセット、そして将来に繋がるネットワークを得ることを目的とする。自ら設定したテーマに基づき、留学先での学びをデザインし、実践する。テーマはビジネス、起業、ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)、テクノロジー、ホスピタリティ、社会貢献など多岐にわたり、現地でのプロジェクトや交流を通じてグローバルな視点を養う。また、国際的な協働力や問題解決能力を強化し、グローバルな環境でのプロジェクトマネジメントを実践的に学ぶ。帰国後のレポートやプレゼンテーションなどの課題も含めて評価し、留学先での学びとして60時間認められた場合、2単位を認定する。なお、原則「Study Abroad A」の修得を前提とし、一度の留学先での学びとして認められる時間が60時間を超える場合は、「Study Abroad C～D」を時間数に応じて同時に修得できる。	共同
			Study Abroad C		本科目は実習科目である。学生は個別のテーマに基づいた留学を通じて、イノベーションに必要な知識、マインドセット、そして将来に繋がるネットワークを得ることを目的とする。自ら設定したテーマに基づき、留学先での学びをデザインし、実践する。テーマはビジネス、起業、ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)、テクノロジー、ホスピタリティ、社会貢献など多岐にわたり、現地でのプロジェクトや交流を通じてグローバルな視点を養う。また、国際的な協働力や問題解決能力を強化し、グローバルな環境でのプロジェクトマネジメントを実践的に学ぶ。帰国後のレポートやプレゼンテーションなどの課題も含めて評価し、留学先での学びとして60時間認められた場合、2単位を認定する。なお、原則「Study Abroad B」の修得を前提とし、一度の留学先での学びとして認められる時間が60時間を超える場合は、「Study Abroad D」を時間数に応じて同時に修得できる。	共同
			Study Abroad D		本科目は実習科目である。学生は個別のテーマに基づいた留学を通じて、イノベーションに必要な知識、マインドセット、そして将来に繋がるネットワークを得ることを目的とする。自ら設定したテーマに基づき、留学先での学びをデザインし、実践する。テーマはビジネス、起業、ダイバーシティ&インクルージョン (D&I)、テクノロジー、ホスピタリティ、社会貢献など多岐にわたり、現地でのプロジェクトや交流を通じてグローバルな視点を養う。また、国際的な協働力や問題解決能力を強化し、グローバルな環境でのプロジェクトマネジメントを実践的に学ぶ。帰国後のレポートやプレゼンテーションなどの課題も含めて評価し、留学先での学びとして60時間認められた場合、2単位を認定する。なお、原則「Study Abroad C」の修得を前提とする。	共同
			Global Experiences A		本科目は実習科目である。国内外のグローバルな環境における様々な活動を目標として設定し、それに向けて準備し、実行する。例えば、海外でのボランティア活動などが挙げられる。活動を振り返ることで自己成長を促し、多様な背景を持つ人々との関わりを学ぶ。また、この科目では、協力や交渉といった経験を重視する。活動後のレポートやプレゼンテーションなどの課題も含めて評価し、60時間の活動が認められた場合、2単位を認定する。なお、一度の活動で認められる時間が60時間を超える場合は、「Global Experiences B」を時間数に応じて同時に修得できる。	共同
			Global Experiences B		本科目は実習科目である。国内外のグローバルな環境における様々な活動を目標として設定し、それに向けて準備し、実行する。例えば、海外でのボランティア活動などが挙げられる。活動を振り返ることで自己成長を促し、多様な背景を持つ人々との関わりを学ぶ。また、この科目では、協力や交渉といった経験を重視する。活動後のレポートやプレゼンテーションなどの課題も含めて評価し、60時間の活動が認められた場合、2単位を認定する。なお、原則「Global Experiences A」の修得を前提とする。	共同

専 門 科 目	留 学 ・ 国 際 共 修 科 目	G l o b a l S t u d y A b e r r o a d ・ S e s s e s s e s	Global Internship A		本科目は実習科目である。海外やニセコなどのグローバルな環境での就業体験を通じて、実践的なスキルを習得することを目的とする。異文化環境での業務を経験し、職場でのコミュニケーション力や問題解決能力を高めるとともに、国際的な視点を養う。インターンシップ終了後には、レポートやプレゼンテーションを通じて、体験した内容や学びを振り返り、英語力や実務スキルをさらに発展させる。実践的な体験に基づく学びを評価し、60時間の就業が認められた場合、2単位を認定する。なお、一度のインターンシップとして認められる就業時間が60時間を超える場合は、「Global Internship B～D」を時間数に応じて同時に修得できる。	共同
			Global Internship B		本科目は実習科目である。海外やニセコなどのグローバルな環境での就業体験を通じて、実践的なスキルを習得することを目的とする。異文化環境での業務を経験し、職場でのコミュニケーション力や問題解決能力を高めるとともに、国際的な視点を養う。インターンシップ終了後には、レポートやプレゼンテーションを通じて、体験した内容や学びを振り返り、英語力や実務スキルをさらに発展させる。実践的な体験に基づく学びを評価し、60時間の就業が認められた場合、2単位を認定する。なお、原則「Global Internship A」の修得を前提とし、一度のインターンシップとして認められる就業時間が60時間を超える場合は、「Global Internship C～D」を時間数に応じて同時に修得できる。	共同
			Global Internship C		本科目は実習科目である。海外やニセコなどのグローバルな環境での就業体験を通じて、実践的なスキルを習得することを目的とする。異文化環境での業務を経験し、職場でのコミュニケーション力や問題解決能力を高めるとともに、国際的な視点を養う。インターンシップ終了後には、レポートやプレゼンテーションを通じて、体験した内容や学びを振り返り、英語力や実務スキルをさらに発展させる。実践的な体験に基づく学びを評価し、60時間の就業が認められた場合、2単位を認定する。なお、原則「Global Internship B」の修得を前提とし、一度のインターンシップとして認められる就業時間が60時間を超える場合は、「Global Internship D」を時間数に応じて同時に修得できる。	共同
			Global Internship D		本科目は実習科目である。海外やニセコなどのグローバルな環境での就業体験を通じて、実践的なスキルを習得することを目的とする。異文化環境での業務を経験し、職場でのコミュニケーション力や問題解決能力を高めるとともに、国際的な視点を養う。インターンシップ終了後には、レポートやプレゼンテーションを通じて、体験した内容や学びを振り返り、英語力や実務スキルをさらに発展させる。実践的な体験に基づく学びを評価し、60時間の就業が認められた場合、2単位を認定する。なお、原則「Global Internship C」の修得を前提とする。	共同
	国 際 共 修	国 際 共 修	国際共修プロジェクトⅠ		本科目は演習科目である。異なる文化や背景を持つ学生同士が協働して学び合うことを目的としたプロジェクト型の授業となる。学生は多様な視点を取り入れながら、課題解決能力やグローバルなコミュニケーションスキルを養う。授業では、学生がチームを組み、国際的なテーマに基づいたプロジェクトを企画・実行する。主にオンラインを活用して海外のパートナー大学や企業と連携し異文化間での協働を進める。学生はグループディスカッションや調査活動を通じて、異なる文化的背景を持つメンバーとの効果的なコミュニケーション方法を学ぶ。自文化理解や異文化理解を深めるにとどまらず、想定外のトラブルに向き合い、解決を目指し共通の目標に向かって協力するマインドセットを育てる。最終的に学生は、国際的な環境での協働のスキルを身につけ、多様性やインクルージョンを尊重したリーダーシップやチームワークを実践できるようになることを目指す。	
			国際共修プロジェクトⅡ		本科目は演習科目である。海外の大学生や企業とオンラインでコラボレーションし、実践的なビジネス課題に取り組む応用的なプロジェクトである。前半では、リモート環境でのコミュニケーションやプロジェクトマネジメントのスキルを学び、海外大学または企業パートナーとのワークショップを通じて、現実的な課題を設定し分析を深める。後半では、マーケティング戦略や財務計画を含む実行可能なビジネスプランを作成し、英語で協働プレゼンテーションを行う。最終発表では、業界の専門家からの評価を受け、国際的な協働力と実践的なスキルを強化することを目指す。	

大学 共通 科目	人間 科学	健康管理学		本科目は、健康の定義や健康観など、健康の捉え方について学修し、疾病予防や生活習慣の改善に向けた正しい知識や方法についての理解を深めることを目的とする。超高齢化社会に突入している我が国にあって、生活習慣病対策や2011年に起きた未曾有の大震災及び昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大など健康に関する世の中の状況は刻々と変化をきたしている。また、積雪寒冷地にあることは、寒冷や雪がもたらす身体への負担やストレスも健康障害に至ることが指摘されている。本科目では、健康に関する指標や現状を学修し、健康増進と健康管理に関する具体的な知識を身につけることをねらいとする。	
		身体の科学Ⅰ		本科目は、身体の構造や機能に関する基本的な知識について理解し、身体活動の基本的な仕組みである筋と関節の動きについて学修することを目的とする。特に、身体の科学Ⅰでは、動きのメカニズムについて解剖学や生理学によるアプローチを中心に学修する。身体活動の重要性に関連して、活動性を高めるために必要な科学的な知識や理論を活用するための能力を身につけることをねらいとし、このことは、健康関連体力（生活関連体力）として、高齢化や生活習慣への懸念が生じている日常における生活活動ばかりではなく、スポーツ活動を中心とする競技関連体力に対しても重要な役割を果たすものと考えられる。本科目では、これらの重要と思われる役割について、身体活動の基本的な仕組みを中心に、科学的なメカニズムを背景に学修する。	
		身体の科学Ⅱ		本科目は、個々のパーツの動きが身体の運動にどのように関係しているかということの応用を中心に学修することを目的とする。身体の科学Ⅰでは、個々の筋と関節に関する動きのメカニズムを中心に学んだが、身体の科学Ⅱでは、運動を包括的に捉え、バイオメカニクスなどの力学的な基礎や体幹や上肢、下肢といった各部分における構造と動き及び機能などについて学修する。最終的には、バイオメカニクスや運動と力学に関する基礎知識を説明できるようになり、身体の仕組みと機能に関する科学的な知識と理論について活用できることを目指していく。	
		スポーツ医学		本科目は、スポーツ活動の実施にあたり必要な医学的知識・技能の習得とスポーツ指導者として求められる医科学的知識を修得することを目的とし、スポーツ指導者の持つ役割について学習するとともに、特に多い整形外科的な事例を中心に、その発生のメカニズムから治療法及びリハビリテーションの実践までを取り扱う。整形外科的な問題は対処法はもちろんのことその予防に関して学ぶ。予防法に関してはテーピングとの関連でも学ぶ。また、マウスピースと歯科口腔外科との関係も取り扱う。スポーツの現場で日常的に発生している事例を基に講義を進めていく。	
		スポーツ生理学		本科目は、「運動によって身体の仕組みがどのように変化するか、その現象と働きについて探求する学問」であることを理解し、スポーツによって起こる様々な身体機能の変化を学ぶことにより、健康な生活を営む上で必要な知識の組み合わせによって個々人に合った健康法を確立するための一助とすることを目的とする。知識の記憶にとどめることなく、思考の深さや広さ及び関連科学との融合に結びつく考え方を習得することを講義の課題とし、まずはスポーツや身体活動と身体の機能変化に伴うメカニズムを理解する。wholehuman、wholebodyとして考えることを習得することを目的として講義を展開し、その過程で「科学は仮定」であることを常に念頭に思考を深めることが重要である。また、スポーツ生理学の基礎知識により、自己のスポーツ活動の調整や健康管理の動機付けになり、生活の質的向上につながる機会を創造することも期待する。	
		スポーツ栄養学		本科目は、学んだ知識を「（１）自分のスポーツ活動や健康づくりに応用できるようになること」「（２）知識を求める他者に、正確、適切に伝達できるようになること」「（３）学んだ知識をもとに、氾濫した栄養情報の中から、正しい情報を取捨選択できるようになること」を目的とする。摂取された食物が遺伝子情報のもと処理された結果、体は形づくられ、存在し、機能することから、不適切な栄養摂取は体の形や働きに悪影響を与える。競技スポーツや健康づくりの場面で行われる運動は、時には体にとってストレスであり、これを上手に処理し、運動を体にとってプラスの刺激とするには、栄養への十分な配慮が欠かせない。前半部で栄養学の基本的知識を学び、後半部でスポーツや健康づくりのために運動する人たちがパフォーマンスの向上や健康度のアップにどのように栄養を摂取すればよいか、その科学的で具体的な方法について学習する。	

大学 共通科目	人間科学	体力科学		本科目は、身体運動の基本的な仕組みについて理解することを目的とし、生体機能の一時的な変化および長期的な適応を理解するための、基本的な生体の構造や機能や運動・スポーツと健康の維持・増進との関連について学ぶ。具体的には、関節や骨格、筋肉の役割を理解し、神経系や呼吸循環系の働きと運動制御の仕組みについて理解する。また、健康と体力、成長期や加齢による身体の変化と運動の重要性、さらに女性とスポーツの関係についても学ぶ。生理学・解剖学的な理解を踏まえて運動の仕組みや技術・技能を分析する視点を修得し、身体運動について解説する能力を身につけることを到達目標とする。	
		トレーニング科学		本科目は、身体活動能力を高めることをねらいとして、その方法論を学修し、トレーニングの原理や原則及びトレーニング処方などの理解を深めることを目的とする。様々な身体活動能力を高めるためのトレーニング方法を学ぶとともに、トレーニング計画やそのプロセスも学び、実際に運用する能力を身につける。また、施設の整備などの環境や管理面の学修をはじめ、トレーニング指導に関連する安全性やスポーツ文化に対する享受能力の向上も目指したい。	
		体育実技Ⅰ		本科目は、健康に関連した体力や運動の必要性を理解した上で、自己の体力を保持・増進できるよう、主体的に運動の実践に取り組めるようになることを目的とする。具体的には実習形式の授業で、健康に関連する知識を深めながら、複数開講されているスポーツ種目等から選択し、自主的に自らのウェルネスの向上に取り組むことを期待する。障がいなどにより運動を行うにあたり特段の配慮が必要な学生、あるいは運動を制限されている学生のために、アダプテッドスポーツクラスも開講する。	
		体育実技Ⅱ		本科目は、身体知を通して、スポーツ文化の享受能力を育み、体育実技Ⅰを修得の上、さらに理解を深め学習深度を増すことを目的とする。具体的には、各種身体運動やスポーツ活動の実践を通し、「（１）心身の健康と体力の向上を図る」「（２）身体運動に関する科学的知識を深める」「（３）体育やレクリエーションに関する社会的、道徳的意義を理解する」「（４）リーダーやサポーターとしての社会的態度を修得する」「（５）スポーツ技能を習得する」ことを主な目的とする。これらの目的を十分理解し、生涯にわたって体育・運動を実践することを期待し、健全な心身を育むことを目指す。	
		生涯スポーツⅠ		本科目は、運動の定着化をはかりスポーツを通して健康体力の増進を図ることをねらいとして、授業目的であるスポーツ文化の享受を実践実習を通して体得し、健康体力の保持・増進を自ら実践することを目的とする。生涯にわたり健康な生活を送るためには、運動の定着化が必要となることから、自らの体力を維持・増進させる手法を身につけ、身体活動を通して健康的な生活習慣の獲得をねらいとする。生涯スポーツとして卒業後も継続しやすい種目を設定し、テニス、バドミントン等を中心に適宜、ライフステージに応じたニュースポーツを紹介する。また、エルゴメータを用いた運動負荷試験や体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握し運動処方を作成する。	
		生涯スポーツⅡ		本科目では、生涯スポーツⅠの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで授業を行なう。スポーツ文化の享受を実践実習を通して体得し、健康体力の保持・増進を自ら実践することを目的とする。現代社会では、健康に対する重要性が高まっており、青年期は生涯に向けての健康関連体力の総仕上げの大切な完成期にあたる。生涯に渡り健康な生活を送るためには、運動の定着化が必要となることから、自らの体力を維持・増進させる手法を身につけ、身体活動を通して健康的な生活習慣の獲得をねらいとする。生涯スポーツとして卒業後も継続しやすい種目を設定し、テニス、バドミントン等を中心に適宜、ライフステージに応じたニュースポーツを紹介する。また、エルゴメータを用いた運動負荷試験や体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握し運動処方を作成する。	

大学共通科目	人間科学	コーチング学		本科目は、公認スポーツ指導者として必要な発育、発達に応じた運動能力とライフステージに応じて獲得されるスキルの基本となる運動動作の概念を理解し、実技師範能力をはじめ、スポーツ活動特有のスキルの獲得に結びつく指導体系を自ら構築する知識・技能を体得することを目的とする。なお、本科目は、体育実技実習科目とは異なり、公認スポーツ指導者としての資質と技能について学ぶ授業である。	
		スポーツ科学演習		本科目は、公認スポーツ指導者として必要な実技師範能力を始め、資質、態度、師範能力を体得することを目的とする。ライフステージや様々な対象に応じた運動プログラムの作成と運動実践に当たり、それぞれの対象に関わる個別の留意事項を学習し、指導計画と安全管理についての深い見識を高める。本科目は、体育実技実習とは異なり、自ら指導・助言を行う公認スポーツ指導者として資質を学ぶ授業である。	
		人間科学演習Ⅰ		本科目は、スポーツ指導における指導者の役割とプレイヤーズセンタードの考え方を理解することを目的とする。スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレイヤーズセンタードの考え方のもと、常に自ら学び続けながらプレイヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を理解する。スポーツ指導を行う上で求められるコミュニケーションスキルとして、論理的な思考能力、意思伝達、交渉能力、調整能力を獲得・向上させ、プレイヤーズセンタードなコーチングについて学習する。	
		人間科学演習Ⅱ		本科目は、身体に関わる知を、スポーツ社会学的に思考できるようになること、スポーツ文化の享受に向けたスポーツ政策の策定から実行までのプロセスを理解すると共に、スポーツを取り巻く様々な事象を考察し、社会学の視座から学習できるスキルを修得することを目的とする。スポーツを社会現象として捉え、それをゼロから思考してみることは、私たちがスポーツをどのように受け止め、それを実践しているかを自覚させる。このことによって、これまで学習してきた体育・スポーツにかかわる知をより理解することになる。	
	人文科学	哲学Ⅰ		本科目は、世界の全てについて知ることを楽しみ、疑う力を身につけるために、これまでの西洋の哲学者がどのようなことを考えてきたか知ることを目的とする。哲学という言葉は、「知ることを愛すること」すなわち何らかの知識が哲学なのではなく、あくまで知ろうとする姿勢こそが哲学を哲学たらしめる。一つ一つの知識を尊重することは大切だが、それと共に、そうした知識が何に由来するのか、どれだけ信頼できるのか、どういう特徴を持ち、どういう限界を持つのか確かめてみる必要がある。そういう観点からも、歴史的に、哲学は全ての学問のスタートであったということを知っておくことが役立ち、価値の問題や人生の意味といった問題を考えるヒントを与えてくれる。「考える楽しさ」、「考えることの奥深さ」の「考え方のサンプル」として、哲学史上のさまざまな人の考え方を紹介していく。	
		哲学Ⅱ		本科目は、「哲学（者）とは何であるか」という問いに含まれる哲学と社会との関係について理解することを目的とする。「哲学」については、実際の姿や期待されるあり方など様々なイメージがある。また、仮に期待通りの「哲学者」が存在したとして、その人は哲学にのみ従事しているのか、あるいはそうすべきなのかについても、様々な意見がある。例えば、その人は孤独に生きているのか、それとも家族や友人、マーケットや国家、さらには国際社会やグローバル化社会と何らかの関係をもっているのか等と問うことができる。そして、哲学（者）の存在は果たして必要なのか。そもそも哲学（者）は「何を」するものなのか。本科目は、西洋の哲学の歴史を振り返ることにより、哲学（者）とは何であるかについて、また哲学という精神的生と、他者との交流を含む社会的生との関係について考察する。	

大学 共通科目	人文科学	心理学Ⅰ		心理学は、人間の心理・行動を科学的に研究する学問である。人間の心理・行動は多様な側面を持っているため、心理学の研究もまた、知覚心理学、学習心理学、認知心理学、感情心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学など多岐に渡って行われている。本科目では、まず心理学の歴史について学び、さらに、知覚、認知、記憶、学習、動機づけ、情動に関する基礎知識を身につける。最終的には、心理学の基礎的な知見を説明できるようになることを目標とする。	
		心理学Ⅱ		本科目では、心理学Ⅰで学んだ知識を基礎として、多岐にわたる心理学の領域の中から社会生活を営む上で理解すべきいくつかの領域（問題解決、性格心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など）を取り上げ、解説する。学んだ知識を基に、自己や他者の行動や心理を客観的に理解しようとする態度を身につけ、日常生活における様々な行動を心理学的視点に立って理解し、各自が置かれた物理的・社会的環境において適応的な行動を取れるようになることを目標とする。	
		現代社会と倫理		現代において、人間の倫理について最も厳しく問い直しが迫られているのは、医療や生命科学に関連する分野においてである。代表的な問題としては、生殖医療技術（体外受精・代理母等）に伴う問題や、出生前診断にもとづく選択的中絶の是非、脳死臓器移植、安楽死・尊厳死の問題などがある。本科目は、これらの諸問題について内容と論点を解説する。そして最終的には、これらの内容と論点の理解を踏まえ、各問題について自分自身で考察し、自分なりの見解を持てるようになることを目的としている。	
		音楽の世界		音楽は、人間の知的活動によって創出される文化的営みである。人間が創出するものであるから、音楽を考察する際には、時代的・社会的・文化的な人間活動として音楽をとらえようとする姿勢、つまり、「社会の中の音楽文化」「音楽を通して社会を見る」という視点が重視される。本科目では、西洋芸術音楽の歴史を社会・文化との関わりの中で理解し、時代的・社会的・文化的な人間活動として音楽を考察する視点を身につける。	
		美術の世界		本科目は、人間の創造性と感性の所産である美術について、多様な表現に触れながらそこに表された思想、信念、感覚、感情などを考察し、視覚芸術である美術の本質と文化所産の伝播・伝承の実相を探究することを目的としている。古今東西の美は、人類の創造力の証として世界各地の文化財や美術作品にその姿をあらわしている。本科目では、各地域・各時代の代表作によって美術の歩みを概観し、その基礎知識を学ぶとともに、特徴的なテーマについて時代と空間を往来しながらその特質にアプローチし、美術文化の創造と受容の過程を理解する。さらにこれらの美術史を構成する美術作品が美術館や博物館において文化財として保護・活用され、新たな美的価値の創造に大きな役割を果たしていることにも理解を深める。	
		文学の世界Ⅰ		本科目では、昭和のはじめから戦後直後にかけての「日本」で活動した小説家である太宰治に注目し、そのテキストのうち、代表的なものをいくつか取り上げる。そして、それらを「批評」の文学という観点から分析し、その意義を理解することを目的とする。ここでいう「批評」とは、テキストが発表された当時における社会状況を踏まえ、それに対して小説の表現を通じて何らかの問題提起を行うことである。太宰治の小説は従来、作者が自らの思いを赤裸々に作品化した「告白」の文学として理解されることが多かったが、本科目では、そのような理解の背景にある文学観を改めて見直すことまでを目指している。	

大学 共通 科目	人文 科学	文学の世界Ⅱ		本科目では、柳田国男（1875～1962）が、明治後期（1910年代）から昭和前期（1940年代）までに発表したテキストをとりあげ、そこに認められる「日本」に対する考え方と、その考えが発表された同時代における社会状況との関連を解説していく。従来柳田の活動は、日本に暮らす人々に受け継がれてきた習慣や営みでありながら、それまで学問の対象として注目されてこなかった事柄をとりあげた点に注目され、「日本民俗学の父」として評価されてきた。しかしそれを、ある時代の社会的テーマに対する、自らの言葉＝テキストを通じた、解決や改善の試みとしてとらえるとき、柳田の残したテキストは、もうひとつの「近代文学」として理解することが可能になる。そのような理解を可能にするための道筋と重要事項を修得していくことが、この講義の目的となる。	
		文化人類学		本科目では、社会と自然の二つの観点から「北海道」を解きほぐしていく。北海道の社会を考えていくにあたって炭鉱業を題材に挙げ、考察していく。「炭鉱」は、北海道の近代化を支え、街の形成や繁栄をもたらした一方、1970年代の「石炭から石油へ」エネルギー革命による炭鉱業の斜陽化は、近代化した北海道の社会構造を大きく変えた。このような北海道における炭鉱業の盛衰をたどることで、北海道の社会について理解を深めていく。また、積雪寒冷地帯である北海道についても、積雪寒冷地における人間の営みを顧みつつ、現代的な先進事例も取り扱うことで、北海道の自然、そして、それといかに社会や人間が関わっているかについて考察し、文化人類学の基礎的な概念を身につけることを目標とする。	
		世界の諸宗教		本科目は、世界の主要な宗教のそれぞれの基本的な特色を理解し、現代社会において宗教が果たしている役割について考えることを目的としている。世界にはさまざまな宗教がある一方で、日本人の多くは特定の宗教を信じない「無宗教」であると自任している場合が少なくない。グローバル化が進む現代社会において、多様な価値観を持つ人々との関わりが避けられない中、それらの基盤となっている宗教についての基本的な知識を身に付けておく必要がある。世界における主要な宗教の成立・発展の経緯や基本的な教えについて概観すると同時に、日本人は本当に「無宗教」と言えるのか、われわれの宗教との関わりについて確認すると共に、宗教を学問として取り扱う「宗教学」の基本的な考え方について説明する。	
		比較宗教学		世界には様々な宗教があるが、それらを比較してみると、多様性と相互の大きな違いと共に、いくつもの共通性があることに気づかされる。本科目は、過去と現代の代表的な諸宗教について、聖と俗、一神教と多神教、民族宗教と世界宗教、「救い型」と「悟り型」などの観点からそれらを相互に比較し、分類、類型化しながら、それぞれの宗教の特色と、相互の相違やそのような相違を超えた共通性について考えていく。世界の主要な諸宗教のそれぞれの特色を理解し、共通性と相違を適切に説明できるようになることを目的としている。	
		人文科学基礎演習Ⅰ		本科目は、日本の古典文学を主体的・実証的に読み解く方法を身につけるとともに、日本の古典や文化に対する理解を深めることを目的とする。江戸時代に書かれた作品をテキストにするが、そこに描かれている当時の人々の悲喜劇は、喧嘩・殺人・破産・成金・詐欺など、330年も前のものとは思えず、現代人への教訓で溢れている。教室ではディスカッションの時間を多くとり、疑問点や解釈をめぐる議論を行う。具体的には、教師の側から作品に即した時代背景や古文の基礎知識解説などを織り交ぜながら、担当者のプレゼンを中心に進めていく。「多様なものの見方」「問題を発見し、目的を持って調べる技術」「読解力」を身につける。	
		人文科学基礎演習Ⅱ		本科目は、日本の古典文学を主体的・実証的に読み解く方法を身につけるとともに、日本の古典や文化に対する理解を深めることを目的とする。人文科学基礎演習Ⅰは入門だが、Ⅱは応用であるため、作者の構想や人物造形、心理描写などについて、より深い探求を行なう。「多様なものの見方」「問題を発見し、目的を持って調べる技術」「読解力」が身につけながら、ディスカッションを通して、解釈の広がりや自身の読みの深化をはかる。	

大学共通科目	自然・数理科学	科学と人間		本科目は、科学の営みについて哲学的見地に立って考察し、基礎科学に焦点を当てて進めていく。哲学の視点から見ると、科学の営みを「確証」と「説明」とに大別することができ、さらに、「論証」概念を基軸に据えることで、両者を統一的に捉えることができることから、「論証」について一定の共通理解を形成することから議論を始めていく。最終的には、科学が決して覆ることのない不朽の真理ではなく限界をもつこと、それにもかかわらず科学が信頼に足る知識であることを説明できるよう理解を深めていく。	
		物質の世界		本科目は、物理学を歴史からひも解いて、最新のトピックスまでなるべく直感的に理解することを目指す。併せて、近年影響が顕著になってきた環境問題やエネルギー問題など、科学と密接に関係している社会問題を理解するための物理学についても簡単な基礎知識を習得していく。身近な我々の生活にどのように関わっているか等も含めながら、物質やそれが従う物理法則について解説する。身近な自然現象に対して何故その現象が起こるのか興味を持ち、自然法則に基づいてそのメカニズムを考える姿勢を身に付けていく。	
		生命の科学Ⅰ		本科目は、生命誕生の過程への「元素の生成→分子の構成→細胞の形成」という宇宙論的視点からの理解を行ない、約38億年前から原始的な「生命」が存在したと言われている地球生命史の基本を学ぶ。私たちの地球が生命の星として歩んできたその歴史と秘密を学んでいくことが本科目の大きな目的である。この目的に沿って原始地球から生命が誕生し、酸素発生型光合成細菌の出現を経て、地球大気が酸素に満たされ、更に生命が進化した過程を学ぶことにより、我々自身がこの地球の中で生かされている生物種の一つであることの深い理解を持つことが目標である。	
		生命の科学Ⅱ		一見不思議な生物の能力の背後には、それを可能にする精巧な仕組みが存在する。本科目は、生物の基本的な仕組みを理解し、同時に生物学と社会とのつながりを学ぶことを目的とする。代謝や遺伝、発生、光合成、進化などの生物の重要な概念を学び、最近発展してきたバイオテクノロジーの基本的な技術や、それがどのような可能性を持っているか、また医療や農業の課題に生物学はどのように取り組んでいるのかを紹介していく。理解を深めるため、できる限り科学的な視点を加える。	
		環境と人間Ⅰ		本科目は、地球環境問題について、その基本的なメカニズムの理解とその対策の考察について学ぶことを目的とする。その中で多くのメカニズムの根底にあるフィードバック機構について学び、その対策としての予防原則の重要性の理解を図る。また現在の最も大きな地球環境問題であり、近年頻発している豪雨災害等の異常気象の原因と考えられている地球温暖化に関して、そのメカニズム（種々の説も含めて）と現況および種々の対策（エネルギーの対策を中心として）について講義で取り上げる。これらの講義を通して、自然環境を保全しつつ、安全で快適な生活を送ることについて、すなわち「自然と人間との共生」について、自然科学的、社会科学的、人文科学的に考えていく。	
		環境と人間Ⅱ		本科目では、最初に現在の地球環境と生命ができるまでの歴史について触れ、地球上の様々な地域で問題化した環境問題と人間とのかかわりについて具体例を元に科学的に講義する。地球、環境、人間を含む生命がどのような物質の循環や動態によって制御されたり影響を受けているのかについて紹介する。地球環境について、正しく理解し、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。これにより、環境問題に向き合うための基礎ができ、さらには総合的考察力が養われることを期待する。	

大学共通科目	自然・数理科学	統計学Ⅰ		本科目では、自然科学、社会科学を問わずその客観的なデータ解析のための基本的な方法論を教えてくれる統計学の基礎としての「データの分析」を学ぶ。データの特徴を把握するために、まず、データを収集・整理しグラフ化することでデータの全体の傾向を把握することを学び、次に平均・分散、相関係数といった様々な統計量を求めることを学ぶ。本科目では、「データの分析」について、その基礎概念と初歩的应用を学ぶことが目的である。基本的な原理を知り、それを元に具体的な計算演習を行い、最後に実際の応用例の中から実践的理解を目指す。	
		統計学Ⅱ		本科目では、「データサイエンス」への導入としての統計学の基礎概念への理解と基本的なツールの習得を目指す。そのために、まず「確率論」の基礎を学んだ上で、様々な確率分布を理解し、その理解を踏まえて「推定」、「検定」、「回帰分析」等の基礎を学ぶ。また近年幅広い分野で活用されるようになり「データサイエンス」の中の必須要素にもなっている「ベイズ統計」についても、事前確率である「ベイズ確率」から紐解いて理解を図る。以上の内容について、基本的な原理を知り、それを元に具体的な計算演習を行い、最後に実際の応用例の中から実践的理解を目指す。	
		数学Ⅰ		本科目のテーマとする「線形代数学」で扱う行列とベクトルは、自然科学、社会科学を問わず様々な現象解析の強力なツールである。ベクトル、行列という数学的道具を習得することで、社会科学、自然科学諸分野で大変効率的に定量的解析ができるようになる。本科目では、その為にまず行列の演算を学び、その応用として「連立方程式の解の分類」を学ぶ。また、変動していた現象（例えば価格の変動、人口変動等）が安定する、安定状態（平衡状態）は行列の固有ベクトルとして理論解析され、安定値（価格、人口等）は行列の固有値として与えられる。この固有ベクトルと固有値を本科目の最後で集大成として解説し、その理解を目指す。	
		数学Ⅱ		本科目のテーマとする「微分積分学」で扱う微分法は、自然科学、社会科学を問わず、様々な現象解析の強力なツールになりうる。微分という数学的道具を習得することで、社会科学、自然科学の諸分野で扱われる様々な変量の増減の様子、最適値等の定量的解析が可能となる。本講義では、べき関数、三角関数、指数関数、対数関数という関数の基礎から紐解き、その振る舞いを微分法によって理解する。積分法については自然現象や社会現象を解明するための非常に重要な数学的手段であり、問題解決の道具として使えるように知識の理解と習得を目指す。	
		自然・数理科学基礎演習Ⅰ		本科目の目的は、モデル解析を基本とする「数理科学」の基礎概念と基本的手法を学ぶことである。そのために、様々な自然現象（社会現象を含む）の中に潜む数理科学的構造を理解し、中学、高校で学んだ基礎的な数学（指数、対数、微分、行列・ベクトル他）を使った「モデル解析」の基本を学び、随時具体的な練習問題で簡単な演習を行なう。簡単なモデルを使ったテーマと演習問題が与えられたテキストから各自が選んだテーマについて、事前に「レジュメ」を作成して黒板（ホワイトボード）を使って発表する形式で演習を進める。演習参加者を交えた質疑応答を行なうことで、論理的な思考力、表現力と、ディスカッション力を高めることも本科目の目的である。	
		自然・数理科学基礎演習Ⅱ		本科目の目的は、「自然・数理科学基礎演習Ⅰ」の目的と同じであり、その概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行なう。様々な自然現象（社会現象を含む）の中に潜む数理科学的構造を理解し、中学、高校で学んだ基礎的な数学（指数、対数、微分、行列・ベクトル他）を使った「モデル解析」の基本を学び、随時具体的な練習問題で簡単な演習を行なう。簡単なモデルを使ったテーマと演習問題が与えられたテキストから各自が選んだテーマについて、事前に「レジュメ」を作成して黒板（ホワイトボード）を使って発表する形式で演習を進める。演習参加者を交えた質疑応答を行なうことで、論理的な思考力、表現力と、ディスカッション力を高めることも本科目の目的である。	

大学 共通 科目	社会 科学	日本国憲法		本科目では、裁判所の判例や政府の実践にも十分目配りしながら、日本国憲法が私たちの生活にどのように活かされ、あるいはどの点で力を発揮できていないのかを考えていく。その上で、立憲主義の理念を踏まえ、日本社会で果たす憲法の役割について正しく理解すること、日本社会における人権保障の現状と課題を把握し、主権者としてその課題に取り組む意欲を持つこと、人権に関する基本的な判例と学説を正確に理解し説明することができるようになることを目標とする。	
		法学		本科目では、憲法、民法、刑法の全体像と基礎知識を理解すること、法的な考え方を学ぶことを目的とする。講義では、教科書の事例を素材にして、憲法分野、刑法分野、民法分野それぞれについて、法律的な知識と考え方（リーガル・マインド）をレクチャーしていく。学生のアクティブな参加を求める講義である。本科目を受講することで、学生には、法律の基本知識を習得し（リーガル・リテラシーを身に付ける）、法律的な考え方（リーガル・マインド）とは何たるかを理解することを目標とする。	
		世界の近現代史Ⅰ		本科目は、20世紀を中心に西洋の現代史の基本を適切に理解することを目的とする。特に、現代世界の歴史や社会を規定した、君主制と共和政、帝国主義と民族主義、資本主義と社会主義・共産主義、ファシズムと民主主義、冷戦構造とその崩壊、グローバリゼーションと民族紛争といった概念について、正しい理解を持ち、20世紀から21世紀にかけての西洋世界の歴史の流れ全体を頭に入れ、その主たる出来事が現代世界の在り様をどのように規定しているかについて、適切に説明できるようになることを目指す。世界の複雑な在り様は、過去の歴史の産物であり、その帰結である。この講座では、20世紀から21世紀にかけての西洋世界の歴史の流れを整理し直し、それが現在の世界の在り様をどのように規定しているかを明らかにしていく。	
		世界の近現代史Ⅱ		本科目は、19世紀後半から第二次世界大戦後にいたる東アジア世界の歴史的過程を、「帝国」日本を中心に当該地域を取り巻く外交関係や政治的論理とあわせて理解することを目的とする。明治維新以降の「帝国」日本がたどった、東アジア世界を中心とした対外拡張について、国際政治との関係、各植民地・占領地での政策までを含む広い視野で考察し、その選択の背景や、運営の実態を学ぶ。西洋列強の「外圧」のなかから出発した近代日本は、次第に「帝国」日本として周辺部への拡大を続けた。対外拡張にともなって選択された支配の方式は、日本本土への統合から、植民地獲得、傀儡政権樹立、軍政へと移行し、それを維持・経営するための政治制度や対外論理を形成してきた。総体としての「帝国」日本の辿った歴史的過程を、背景となる時代環境とあわせて理解することが目的であり、その上で日本と東アジアを中心とする諸外国との歴史的関係性を考察する。	
		政治学Ⅰ		本科目は、今我々が生活している時代の「政治」を身近な世界から見直し、12の問いを立てて「政治」と私たち一人一人のつながりを考え、政治という社会現象に対する理解を高め、現代政治を歴史的・世界的な視点から見つめる視点を得ることを目的とする。政治と私たちのつながりを考えることは、すなわち私たち一人一人が形成している無数の人間活動の網の目を見直し、それをより良いものに変えていくきっかけをつかむことにもなる。現代に生きる私たちは、好むと好まざるとに関わらず「政治」の影響を大きく受けながら暮らしている。「政治」について知っていること、知らないことは、現実世界の中で自らの手で人生を組み立て、それを自分の足で歩んで行く上で、ときに決定的に重要な意味を持つ。	
		政治学Ⅱ		本科目は、バングラデシュという国、そこに生きる人々の社会を、歴史的・文化的背景を含めて学び、「遠くて遠い」存在を「遠くて近い」存在として、同じ地球社会に暮らす多様な隣人の国・社会として、内面的に理解することを目指す。講義では、南アジアの国、バングラデシュに焦点を当てて、その政治の特徴を、歴史、国際関係、グローバル化の諸側面から明らかにする。バングラデシュは、これまで貧困と自然災害の国として知られてきたが、実は、世界最大のNGOが生まれた国であり、世界第3位の人口を持つイスラム教国であり、世界の貧困解決のモデルとされるマイクロクレジットの発祥地でもある。バングラデシュ政治について一定の理解を得ることは、他の開発途上国の政治を理解する上で有益であるばかりでなく、バングラデシュが抱える問題を通して、国境を超える市民社会～地球市民社会～形成の意義と必要を照らし出すことにもつながる。	

大学 共通 科目	社会科学	経済学Ⅰ		本科目は、経済ニュースに関心をもつようになること、経済学の歩みを理解し、経済学的思考のエッセンスを身につけること、経済現象に対し、理論の眼をもって向き合うようになることを目的とする。現代の精緻に組み上げられた経済理論そのものを追うのではなく、その源である18世紀の古典派経済学を理解のための補助線として活用し、貿易不均衡や失業など現実の経済問題に関わらせながら、近代経済学(ミクロ理論・マクロ理論)とマルクス経済学のエッセンスを紹介していく。	
		経済学Ⅱ		本科目は、教科書の批判的な読解を通じて、20世紀末からのグローバル化の中で現われた様々な問題を、資本主義経済の根本的な特質と、現在の特有の事柄との両面から学び、現代の経済社会が抱える諸問題の解決の方向について考える力を養うことを目的とする。講義の主要な論点は、「(1)資本主義経済が誕生した時代に資本主義を批判したK.マルクスは、資本主義の問題点をどう捉えたのか」「(2)マルクスが指摘した問題点のうち、現代にも当てはまるものは何か、そうでないものは何か」「(3)マルクスでは捉えられなかった問題は何か、その発見と理解には別のどのような見方が必要か」「(4)教科書の著者やマルクスの議論は妥当なものか、そうでないとなれば、それをどう批判し、どう改めるか」等である。これらの探求を通じて、経済社会の将来構想で求められる視点と考察力を育む。	
		社会学Ⅰ		本科目では、社会学的なものの見方を習得し、その基礎的な概念を使って社会を見る方法の理解を目指す。社会学(sociology)とは、文字どおり、社会(socio)の論理(logic)を見つける研究である。社会学が対象とする「社会」は、物理学が扱うような、モノ＝「物理的对象」ではない。むしろ、この「社会」は私たちの目の前にあるようで、「一定の論理を持った意味づけ」をしないと、モノ＝「社会学的対象・社会問題」として見えてこないものである。この講義では、社会に生きる人々がどのような意味を持って<行為>をしているか、どのようなやりとり<相互行為>をしているか、どのような<集団>に属しているのか、そしてその<構造>と<変動>はいかにして見ることができかなど々の課題に対して、社会学的な補助線を引くことにより、私たちが自覚していないまま使っている社会の論理を解明していきたいと考える。	
		社会学Ⅱ		本科目は、社会学の基本的な考え方とキーワードを理解し、社会学が探究してきた自律の社会的条件について考えることを目的とする。社会学は人と人が日々関わり合う相互作用のあり方に注目することによって、人々が社会をつくり、また社会に影響される現象を記述・説明していこうとする科学である。講義ではまず社会学のねらいや基本的な発想法、キーワードを学ぶ。続いて、相互依存のネットワークにおける人間という発想が個人が自律するための条件につながることを学び、自律という価値についての見直しとその価値を実現するための社会的条件について考える。また、都市と農村の関係、社会の分断とネットメディアなどのトピックを通して、社会学の基本的な発想法とキーワードを応用していく。	
		ジェンダーと社会		本科目は、「ジェンダー」という概念を正しく理解し、世の中や自分の中の「常識」を新たな視点から見直すための道具として使えるようになることを目的とする。はじめに、「ジェンダー」の定義を示し、ジェンダー研究の背景を述べた後、さまざまなライフステージや領域におけるジェンダー問題を具体的に取り上げ、一緒に考えていく。様々な場面からジェンダーについて考察し、「ジェンダー」という概念について、説明できるようになること、現代社会におけるジェンダー問題を指摘できるようになること、ジェンダーに限らず、社会的弱者が置かれた不利な立場に思いを致し、抑圧に加担しないでいられる方法を考えられるようになることを目指す。	
		平和学		本科目は、平和学に関する基礎知識と特徴としての学際性について理解し、現在の平和学の到達点と課題について、自分なりに論じることが出来るようになることを目指す。学生の時に、私たちの身近にある社会的な諸課題から地球的問題群と呼ばれる全人類が直面する課題までを幅広く考える機会を持つことは、いわゆる「グローバル化」の賛否が叫ばれる現代の社会にあって必要なことであると考える。知的関心を刺激して、一人でも多くの方にそれぞれの平和の課題を深めることが出来るような講義展開を目指す。	

大学 共通 科目	社会科学	社会科学基礎演習Ⅰ		本科目は、日本の現代社会の多様な課題について考察し、検討する能力を高めることを目的とする。現代の日本社会には、コロナ禍に加えて、社会的格差と貧困、少子高齢化と子育て・年金問題、都市一極集中と地域格差など様々な社会的課題がある。この演習では、日本の様々な論点をテキストを用いて考察する。この演習を通じて、日本の現代社会の諸課題について、教養として自己の考えを持ち、文字や言葉で表現できることを目指す。	
		社会科学基礎演習Ⅱ		本科目では、社会科学基礎演習Ⅰの目的、概要を踏襲し、その継続的テーマで演習を行なう。それによって、日本の現代社会の多様な課題について考察し、検討する能力を高めることを目的とする。現代の日本社会には、コロナ禍に加え、社会的格差と貧困、少子高齢化と子育て・年金問題など様々な社会的課題がある。この演習では、これら日本の様々な論点をテキストに加えて、可能であれば映像資料を用いて考察する。この演習の受講により、日本の現代社会の諸課題について、教養として自己の考えを持ち、文字や言葉で表現できることを目指す。	
	地域と世界	北海道・北方地域文化論Ⅰ		本科目は、南北に長い日本列島のなかで最北に位置する北海道の地理的な特徴を踏まえた上で、北海道の文化を「博物館展示」を素材としながら考えていくことが目的である。「文化」を「考える」と書いたが、「文化」といっても研究者によって様々な定義がある。そこで、文化についての定義を概観した上で、北海道や北方地域の文化について「道具」を中心に考えていくという方法をとる。「北海道文化」を語るにも、様々な切り口や語り口があるが、まずは、博物館が展示しているモノを中心にして、北海道で展開されてきた人々の生活、その移り変わり、他の地域との比較を紹介していく。	
		北海道・北方地域文化論Ⅱ		本科目は、北方圏の歴史・文化的背景を学ぶとともに北方圏は自分たちを取り巻く実世界・実社会であることを理解すること、また、日々刻々と変化する北方圏の動向とその背景を理解できる素地を自らの中に構築し、説明できるようになることを目標とする。北海道は日本と世界の接点に位置しているにもかかわらず、日本史の教科書にも世界史の教科書にも、ほとんど取り上げられない曖昧な立場に置かれてきた。本科目では、私たちの住む北方圏のダイナミックな歴史と文化を知るとともに将来の大きな可能性に注目していく。	
		日本の文化Ⅰ		本科目は、主に2000年までの日本のミステリジャンルの歴史を追いつながら、小説、マンガ、ゲームなど、様々なメディアで展開する謎解き物語について学び、日本文化の中でも特にサブカルチャー領域についての理解を深めることを目的とする。現代の日本ではミステリ作品が人気を集めている。古くは江戸川乱歩から現代では『名探偵コナン』や『相棒』まで、どのような時代にも、誰でも一度は耳にしたことがあるミステリ作品が途切れることなく存在している。本科目では、私たちの身近にあり様々なメディアで展開するミステリを題材として、その歴史を概観するとともに、いくつかの作品を具体的に分析しながら、謎やトリックを成立させるためのテキスト上のテクニクについて学ぶ。ミステリを軸として、日本のサブカルチャー領域についての基本知識を身につけ、基礎的な文学理論や批評理論を理解し、作品分析の手法を身につけることを目指す。	
		日本の文化Ⅱ		本科目は、主に2001年以降の日本の本格ミステリ作品を取り上げて分析することを通して、日本文化の中でも特にサブカルチャー領域についての理解を深めることを目的とする。日本の本格ミステリは、戦後の一時期、松本清張に象徴される「社会派」ミステリの勢いにおされていたが、1980年代後半から劇的な復活を遂げた。以来、映画やアニメ、マンガ、ゲームなどのメディア展開も含めて様々な形で人気を博し続けている。その流れのなかでは、このジャンルの特徴である作者と読者の知恵比べを成立させるための工夫のなかからいくつかの論点が提起され、多様な作例で検討されてきた。本科目では、2000年以降のいくつかの作品を具体的に分析し、それらの作品が先行作をどのように乗り越えようとしているのかを考察していくことを通して、21世紀の日本のサブカルチャー領域に関する基礎知識を身につけることを目指す。	

大学共通科目	地域と世界	中国の文化		本科目は、中国の書籍・文献について、その原典を眺めながら、中国の文化の根底に流れる様々な思想に触れてもらい、先人たちの思考法を体験しながら、そこにあらわれる中国の文化についての理解を深めることを第一の学習目的とする。講義を通じ、中国の様々な物事についての基礎的な知識を身につけ、様々な中国古典の原典に親しみ、そこにみられる中国的思惟と文化を把握し理解することを通して、同時に日本の文化についても理解を深めていく。	
		韓国・朝鮮の文化		本科目は、隣国である韓国について知り、その固有の文化を理解することを目標とする。近年、韓国と日本は、人的・物的交流が増え相手の文化に接する機会が多くなった。さらに両国には「韓流」に代表されるような新しい文化的潮流も見られる。反面、依然として歴史認識問題などによる葛藤的要素も内在している。また情報の氾濫は、時々間違った知識や認識を持たせることもある。こうした状況の中で、一国の文化を理解するためには、その背景にある歴史や社会状況を把握することが非常に重要だと言える。本科目では、韓半島の歴史を理解しながら、当時の社会と文化がどのように影響され、どのように形成されたのかに焦点を当て、その背景にあったのは何か、それが今日にいかにつながっているのか等について考察していく。	
		アメリカの文化		本科目は、1990年以降に製作されたハリウッド映画が描くアメリカ合衆国の文化を、セクシュアリティの視点から観察していく。また、テーマについて批評・評価していくスタイルで講義を進めていく。実際に映画を5程度鑑賞し、その前後に担当者による講義や解説、質疑を行いながらアメリカの文化についての理解を深めていく。作品を通して、アメリカの文化背景や映画内容について考察することにより、多角的に考え表現できる能力を養うことを目指す。	
		ヨーロッパの文化		本科目は、「ヨーロッパ」とは何かという問いについて、地理、歴史、芸術、制度、思想などの観点から多角的に調べ、知り、考えることによって、自己とは異なる他者の存在を理解すると同時に、自己を相対化する視座を獲得することを目的とする。本科目を通じて、ヨーロッパをなす地形や気候、言語や宗教の分布についての基本的な知識を獲得し適切に説明できる力、ヨーロッパ文化の礎であるギリシア・ローマの文化ならびにキリスト教について、それぞれの特色を理解し具体的に説明できる力、またとりわけキリスト教がヨーロッパ各地の歴史、文化芸術、社会制度、倫理や道徳にどのような影響を与えたかについての基本的な知識を得て、それらを具体的に説明できる力を養う。	
		国際・比較文化論		本科目は、国際社会が抱える諸問題・諸課題について社会学・文化人類学による観点から考察し、考える力を身につけることを目的とする。国際文化論とは、文化と文化との関係性を比較しながら、国際社会の現在を読み解く学問である。授業では、国際文化論の第一歩として基本的な理論及び比較の方法論を学ぶ。具体的には、文化人類学や社会学の観点を中心として、これまで文化をめぐるいかなる議論が展開されてきたのかを紹介し、国際文化論の立場から現代社会を考察する。講義を通して、国際文化論の基礎を習得し、それを身の回りの具体的な社会問題へと結びつけ、説明できるようになることを目標とする。	
		地域と世界基礎演習Ⅰ		本科目は、現代の学生の身近にある様々な文化について学び、現代文化を分析するための基礎を身につけることを目的とする。取り上げる題材は、インターネット、マンガ、ゲーム、アート、スポーツ、音楽、携帯電話（スマートフォン）など多岐にわたる。その際、現在の文化を相対化する視座として、1990年代の文化についても検討する。現代と90年代の共通点と差異の検討を通して、自身の身の回りにある様々な文化やメディアが過去から変容を遂げてきており、さらに今後も変化していく可能性があることを共通理解する。この経験を通して、現代文化の成り立ちに興味を持ち、日常的な題材を分析対象とするための考え方を身につけることを目指していく。	

大学 共通 科目	地域 と 世界	地域と世界基礎演習Ⅱ		本科目は、現代のメディアやコンテンツを分析するための基礎を身につけることを目的とする。現代では、ひとつのコンテンツが様々なメディアを横断して展開することが一般的である。本科目では、メディア・コンテンツに関わる文献を輪読することによって、作品と媒体との関係性に関する考察を深めていく。取り上げるテーマは、アニメ、コンテンツツーリズム、ゾンビ、魔法少女、推理小説など多岐にわたる。演習形式の授業を通じ、やや難度の高い文献の読解ができるようになること、現代のメディアやコンテンツについての基礎知識を身に付け説明できるようになること、現代のメディアやコンテンツについて自ら探求し、独自の論点を導き出せるようになることを目標とする。	
	キリスト 教 学	キリスト教文化入門Ⅰ		本科目は、本学の建学の精神を支えるキリスト教の文化について、多角的に調べ、知り、考えることによって、自己とは異なる他者の存在を理解すると同時に、自己を相対化する視座を獲得することを目的とする。今日の文化、制度、倫理や道徳の背景に広がるキリスト教についての基礎知識を、北星学園大学とキリスト教、世界の諸宗教の中でのキリスト教の歴史、文学・経済・福祉という大学各学部とキリスト教との関わりから学び、受講者の人格形成に寄与すると共に、人類の歴史と文化を洞察する力をもって自己の行動指針を考察・実践できるようになることを目指す。本科目を通じて、施設・制度の面での北星学園大学とキリスト教の関わり、各学部での学びの土台となるキリスト教の文化的・思想的役割、世界宗教としてのキリスト教についての基礎的な理解を、歴史的側面から獲得できるようになる。	
		キリスト教文化入門Ⅱ		本科目は、聖書、キリスト教の歴史、本学の行事から、本学の建学の精神を支えるキリスト教文化について、調べ、知り、考えることによって、自己とは異なる他者の存在を理解すると同時に、自己を相対化する視座を獲得することを目的とする。今日の文化、制度、倫理や道徳の背景に広がるキリスト教についての基礎知識を、本学と関わりのある聖書の言葉、日本・北海道におけるキリスト教の歴史と位置付け、本学の祝祭行事から学び、そこに見られる世界観や人間観について理解を深めることを目指す。本科目を通じて、聖書の基本的な知識と共に、関連する聖句を通じて北星学園大学とキリスト教の関わり、日本および北海道におけるキリスト教の歴史についての基礎的な知識を身に付け、文化としてのキリスト教が果たす役割や意義を考察し、主体的に実践する力を獲得する。	
		聖書入門Ⅰ		本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、旧約聖書の内容や、そこに含まれる諸文書の成立事情ならびにその歴史的背景などを理解することを目的とする。キリスト教ならびにその思想的根幹である旧約聖書の内容や神髄に触れつつ、「人間としてのあるべき姿」を自らの力で探究、発見、そして実践するために必要な力を身に付けるための教養的土台を培う。その際、キリスト教や聖書を信仰の対象としてのみではなく、学問の対象として体系的にとらえ、人間活動の所産として客観的に分析できる視点や知識を身につける。本科目を通じて、旧約聖書が生まれた自然環境、歴史的背景について適切な知識、旧約聖書が書き伝えられた言語ならびに全体的な構成についての正確な知識を獲得し、旧約聖書の全39文書の基本的な内容と特徴、それらの成立過程について解説できるようになる。	
		聖書入門Ⅱ		本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、新約聖書の内容や、そこに含まれる諸文書の成立事情ならびにその歴史的背景などを理解することを目的とする。キリスト教ならびにその思想的根幹である新約聖書の内容や神髄に触れつつ、「人間としてのあるべき姿」を自らの力で探究、発見、そして実践するために必要な力を身に付けるための教養的土台を培う。その際、キリスト教や聖書を信仰の対象としてのみではなく、学問の対象として体系的にとらえ、人間活動の所産として客観的に分析できる視点や知識を身につける。本科目を通じて、キリスト教が形成されるまでの時代史的な流れを説明できるようになり、新約聖書の歴史的・政治的・社会的・宗教的な背景、新約聖書が書かれた言語、その写本や本文、ならびに各文書の全体的な内容についての適切な知識を獲得する。	
		キリスト教史Ⅰ		本科目は、キリスト教が固有の宗教として確立してから、約2000年の歴史を通じて世界宗教として発展していく経過の中で、古代から中世に至るまでを、キリスト教の宗教としての特色や固有性と共に歴史的に適切に理解することを目的とする。キリスト教が、民族宗教であるユダヤ教から分離し、ローマ帝国の領土内で迫害から公認、国教化へと向かう過程を経て、独自の世界宗教として発展していく過程、さらには東西教会の分裂へと至る経緯を歴史的に概観する。またそれに関わるキリスト教自体の変化、宗教としてのキリスト教の基本的教義と信仰内容についても概説する。本科目を通じて、地中海世界に端を発する宗教のキリスト教が、民族宗教であるユダヤ教から分離・独立し、ヨーロッパ全土に広がった経緯について適切に説明できるようになり、宗教としてのキリスト教の教義とその特徴についての基本的な知識を獲得する。	

大学 共通科目	キリスト 教学	キリスト教史Ⅱ		本科目は、キリスト教が固有の宗教として確立してから、約2000年の歴史を通じて世界宗教として発展していく経過の中で、さまざまな教派への分化の様相を、キリスト教の宗教としての特色や固有性と共に歴史的に適切に理解することを目的とする。世界宗教としてのキリスト教の中で、西ヨーロッパではローマ・カトリック教会が、東ヨーロッパでは東方正教会が発展した過程、さらに16世紀以降、宗教改革を通じて生まれたそのプロテスタント諸教会が、どのような経過や理由から生まれたのかを歴史的にたどりながら、それぞれの特色を明らかにする。本科目を通じて、東方教会（正教会）と西方教会（ローマ・カトリック教会）のそれぞれの特徴と違い、プロテスタント諸教会が誕生した歴史的な背景や経緯について適切に説明できるようになり、プロテスタント諸教会の特徴と相互の相違についての基本的な知識を身に付ける。	
			聖書講読Ⅰ	本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、旧約聖書にたどり着いた思想やその背後にある歴史や文化を理解し、それらが関わる現代的な課題について考察するための多角的な視座を獲得することを目的とする。旧約聖書の中から、現代的な課題に関連する具体的なテキストを、これまでの学びで得た知識も援用しつつ精読し、議論することで、旧約聖書の思想的特質を学べるようにする。それらを通じてより一般的に、対象を批判的に考察し、そこから得た自らの知見・見解を説得的な文章で表現する力を身に付けられるようにする。本科目を通じて、旧約聖書における古代イスラエルの歴史観や思想的特質について、具体的なテキストを基に考察できるようになると共に、現代社会の諸課題について考え、より良い答えを導き出すための多角的な視座とその是非を検証する力を獲得する。	
			聖書講読Ⅱ	本科目は、キリスト教の思想や文化の基盤である聖書のうち、新約聖書の思想やその背後にある歴史や文化を理解し、それらが関わる現代的な課題について考察するための多角的な視座を獲得することを目的とする。キリスト教の思想の礎である新約聖書の中から、現代的な課題に関連する具体的なテキストを、これまでの学びで得た知識も援用しつつ精読し、議論することで、新約聖書の思想的特質を学べるようにする。それらを通じてより一般的に、対象を批判的に考察し、そこから得た自らの知見・見解を説得的な文章で表現する力を身に付けられるようにする。本科目を通じて、新約聖書におけるイエスやパウロの思想的特質について、具体的なテキストを基に考察する力を身に付けると共に、現代社会の諸課題について考え、より良い答えを導き出すための多角的な視座とその是非を検証する力を身に付ける。	
			キリスト教学演習Ⅰ	本科目は、人文・社会科学の分析方法である批判的読解・フィールドワークの目的と方法を理解し、それらを日常や身近にあるキリスト教文化について実践することを目的とする。学内各所に点在する、また札幌近郊におけるキリスト教文化について、それらの由来や意義を調査し、他の類型との比較などの報告、討議によって理解を深める。これらの事前準備を踏まえた後で、実際に現地に赴いて現物を調査・観察することで、それまでの学びで得た自らの知識の定着と深化を行う。本科目を通じて、身近にあるキリスト教文化に気づき、その背景や由来についての適切な知識を調査・分析・提示する力を身に付けると共に、資料から獲得した知識について、それらを実地での調査・観察によって検証・深化する能力を獲得する。	
			キリスト教学演習Ⅱ	本科目は、人文・社会科学の分析方法である批判的読解・フィールドワークの目的と方法を理解し、それらを日本におけるキリスト教文化について実践する。日本ならびに北海道におけるキリスト教文化について、それらの由来や意義を調査し、他の類型との比較などの報告、討議によって理解を深める。これらの事前準備を踏まえた後で、実際に現地に赴いて現物を調査・観察することで、それまでの学びで得た自らの知識の定着と深化を行う。本科目を通じて、今日の日本社会の中に生き続けるキリスト教文化の背景や由来についての適切な知識を調査・分析・提示する力を身に付けると共に、資料から間接的に獲得した知識について、それらを実地での調査・観察によって検証・深化する能力を獲得する。	
	キャリア 支援	キャリア 教育 科目	職業と人生	本科目は、自分と社会を知り、卒業後の自分のキャリアを具体的にデザインできるようになることを目的とする。道内外の企業経営者や人事採用担当者、本学の卒業生を中心とする多様な職種の人々による講演を通じて、就職活動の現状や今後の社会で求められる力について具体的に学び、受講者同士が相互に主体的に学び合うアクティブラーニング形式でのワークショップによって、個人が属するチームや社会との関係性を積極的、効果的に接続する方法を獲得する。本科目を通じて、自分と社会の関係性を具体的に発見し、明確化できるようになり、その理想に向かって一歩進み出すことができる力を身に付ける。	

大学共通科目	キャリア支援	情報科目	情報入門		本科目は、コンピュータの操作技能や情報処理に関する基礎的な知識の習得だけでなく、情報社会に参画する上で適切な態度を身につけるとともに、今後の社会におけるデータやAIの利活用や取り扱いの重要性についても理解することを目指す。本科目の主な目的は以下の通りである。(1)今後、大学や実社会において直面する情報活用場面で必要となるパソコンやソフトウェアの基本的な知識・操作技能を習得すること、(2)コンピュータウイルス、情報の漏洩や改ざん、不正アクセス、著作権侵害など、情報倫理・モラルならびに情報セキュリティに関する初歩的な知識を習得すること、(3)ビッグデータ、IoT、Society 5.0など、社会におけるデータやAIの利活用やその必要性について理解すること、(4)個人情報保護、データ倫理、研究倫理といった情報を取り扱う際の留意事項などに目を向け、情報社会に参画する上で適切な態度を身につけること。	
			情報活用		本科目は、情報入門をさらに発展させ、今後の大学生活や社会で必要となる情報活用能力を総合的に涵養することを目指す。調べたい事柄についての企画立案に始まり、調査の実施、データの集計・整理・分析、調査結果の報告やプレゼンテーション等を通じて、ソフトウェアやネットワークサービスなどの多様な手段を活用する方法を習得し、得られたデータを適切に取り扱う力を養う。本科目の主な目的は以下の通りである。(1)個々のソフトウェアを運動させて使いこなし、新しい意見やアイデアを提案していく能力の習得、(2)他者への情報伝達や情報共有に利用できる多様なサービスについて、それらの有効性と危険性を理解して活用すること、(3)データ(変数、尺度)の種類、また、分布やばらつきなどの統計情報をもとにデータの特徴を読み解き、グラフやチャートなど適切な可視化手法を選択して、他者にデータを表現、説明するデータリテラシーを身につけること。	
	外国語	ドイツ語	ドイツ語Ⅰ		本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、自己紹介・専攻・言語・食事・趣味・家族・持ち物・買い物等、学生の日常生活をテーマに、基本的な語彙と表現を学ぶ。文法は、動詞の現在人称変化、名詞の格変化Ⅰ・Ⅳ格、話法の助動詞 koennen, moechten、現在完了形などを学ぶ。これにより、ドイツ語で自己紹介ができること、専攻科目・言語・食事・趣味・家族・職業・年齢等のテーマについてドイツ語で話したり書いたりできることを目指す。また、相手に質問し、相手の言うことを理解することを目指す。文法は、日常よく使用する基本的な動詞の現在人称変化をマスターし、正しく作文できることを目指す。最終的には、独検５級程度のドイツ語能力習得を目指す。	
			ドイツ語Ⅱ		本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、休暇中にしたこと・住まい・一日の活動・大学生活・休暇の予定・経験や体験等、日常生活や身近なテーマについて、ドイツ語で表現できるようになることを目指す。文法は、前置詞、分離動詞、sein, haben の過去形、話法の助動詞 wollen 等を学習する。これにより、日常生活について、ドイツ語で話したり書いたりすることができる、相手に質問し相手の言ったことを理解する、手紙やメールを書く形式を学び友人に簡単な手紙を書けるようになることを目指す。文法では、名詞の格変化を理解し、現在完了形や話法の助動詞を使って正しい語順で作文することを目指す。最終的には、独検４級程度のドイツ語能力習得を目指す。	
			ドイツ語Ⅲ		本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、休暇・旅行・天気等をテーマに、「食事を注文する、支払う、宿を探す、予約を頼む、道を尋ね、両替する、切符や切手を買う、体験を話す、理由を話す、意思を伝える」等の表現を学び、ドイツ語の基本文型と文法を学習する。また、テーマごとにドイツ語圏と日本の文化の違いを学び、ドイツ語で日本の事情を説明できるようになることも目指す。これにより、１年生で学んだ語彙と文法を自由に使えるようにし、関連語彙と表現を増やすことを目指す。新しい語彙と文法では、特に副文の語順を定着させ、理由などを言えるようにすることを目指す。ドイツ語Ⅳと合わせて、最終的にはヨーロッパ共通参照枠レベルA1のドイツ語能力習得を目指す。	
			ドイツ語Ⅳ		本科目は、基本的な文法を一通り学習することにより、言語運用能力の養成、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的な力を身につけることを目的とする。本科目を通して、健康、贈物、環境問題、学校制度、祝祭等をテーマに、より複雑な表現や文法を学習する。これにより、再帰動詞、zu 不定詞句、命令形などを使ってドイツ語で話すことを目指す。また、副文、関係文、受動文、不定詞構文など、高度な文法を含むテキストを読むことを目標とし、最終的には、ヨーロッパ共通参照枠レベルA1のドイツ語能力習得を目指す(独検３級程度に相当)。	

大学 共通 科目	外国語	フランス語	フランス語Ⅰ		本科目は、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、実生活の様々な場面において、挨拶、自己紹介、家族や趣味についての簡単な対話ができるよう学ぶ。また、フランスの社会・文化・生活習慣等について知識を広げていくことを目指す。また、フランス語の音と綴り字の関係を理解し、簡単な挨拶、自己紹介、家族や趣味について発言できる能力を身につけることを目指す。最終的には、仏検5級レベルの4技能（聞く・話す・読む・書く）の習得を目指す。	
			フランス語Ⅱ		本科目は、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、複合過去形や近接未来形を学ぶ。また、フランスの社会・文化・生活習慣について学び、知識を広げていくことを目指す。これにより、表現の幅を大きく広げ、自らの日常生活や未来の予定を語ること、一日の出来事を日記のように綴ることができるようになることを目指す。また、基本的な表現で簡単な意志の伝達、聞きたいことを発言したり、聞き取ったりすることができるようになることを目標とする。最終的には、仏検5級レベルの4技能（聞く・話す・読む・書く）の習得はもちろん、次なる4級獲得への準備期間とみなし、その習得を目指す。	
			フランス語Ⅲ		本科目は、フランス語Ⅰ・Ⅱに引き続き、初級フランス語の基礎文法を学ぶとともに、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、レストランでの会話、旅をめぐる様々な場面、健康状態や病状等の表現用例を学ぶ。また、フランスの社会・文化・生活習慣について知識を広げていくことも目的の一つである。これにより、これらの用例を「パターン」として確実に習得し、使いこなすことを目指す。また、フランス語Ⅰ・Ⅱで学んだ事柄を血肉化し、さらにその内容をレベルアップして、細かいニュアンスの伝達が可能になることを念頭に置き、レストランでの注文、列車の切符やホテルの予約、健康状態や病状等、具体的な日常生活に不可欠なコミュニケーション力が身につくことを目指す。最終的には、仏検4級レベルの技能（聞く・話す・読む・書く）の習得を目指す。	
			フランス語Ⅳ		本科目は、フランス語Ⅲに引き続き、初級フランス語の基礎文法を学ぶとともに、実際のコミュニケーションに役立つフランス語の習得を目的とする。本科目を通して、郵便局での具体的なやりとり、商店での服や靴のサイズの指示等、生活に役立つ内容をはじめ、家族の形態や環境問題、エネルギー問題等について、自分の意見を語る場面を通してフランス語の習得を目指していく。これにより、フランス語Ⅲに引き続き、細かいニュアンスの伝達ができるようになり、自らの考えを説明したり、独自の意見を述べたりすることが可能になる。また、フランスの社会・文化・生活習慣について知識を広げると同時に、自らの環境を比較し、相対的なものの見方を養っていくことも目的のひとつである。最終的には、仏検3級レベルの技能（聞く・話す・読む・書く）の習得を目指す。	
		中国語	中国語Ⅰ		本科目は、「話す、聞く、読む、書く」の基本的な技能を身につけることを目的とする。本科目を通して、身近なテーマや場面をもとに、基本的な語彙や文型を学ぶ。学生同士の対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置き、また、聞き取り、読み物、作文等の練習も行うことで、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指していく。中国語文法の基礎を身につけ、初歩の会話や作文ができるようになることを目指す。	
			中国語Ⅱ		本科目は、中国語Ⅰで学んだことを基礎に、「話す、聞く、読む、書く」の基本的な技能をさらに深め、身につけることを目的とする。本科目を通して、身近なテーマや場面をもとに、基本的な語彙や文型を学ぶ。学生同士の対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置き、また、聞き取り、読み物、作文等の練習を行うことで、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指していく。さらに、対話文や読み物を通して中国の日常文化を理解し、日本の文化を平易な中国語で表現できるようになることを目標とする。最終的には、実用中国語検定4級合格レベルを目指していく。	

大学共通科目	外国語	中国語	中国語Ⅲ		本科目は、中国語Ⅰ・Ⅱで学んだことを基礎に、「話す、聞く、読む、書く」ことについて、より高度な技能を身につけることを目的とする。本科目を通して、より高度な文型や表現を学習し、学生同士による対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置いて学んでいく。また、聞き取り、読み物、作文などの練習を行うことで、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指す。さらに、対話文や読み物を通して中国の日常文化を理解し、日本の文化を平易な中国語で表現できるようになることを目標とし、基礎的な中国語運用能力に加えて、少し複雑な文法などを用いられるようになることを目指す。	
			中国語Ⅳ		本科目は、中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学んだことを基礎に、「話す、聞く、読む、書く」ことについて、さらに高度な技能を身につけることを目的とする。本科目を通して、さらに高度な文型や表現を学習し、学生同士による対話練習を中心とした授業により、中国語を「話す」ための訓練に重点を置いて学んでいく。また、聞き取り、読み物、作文などの練習を通して、「話す、聞く、読む、書く」の四技能の習得を目指す。さらに、対話文や読み物を通して中国の日常文化を理解し、日本の文化を平易な中国語で表現できるようになることを目標とし、最終的には、実用中国語検定３級合格レベルの力を身につけることを目指す。	
		韓国語	韓国語Ⅰ		本科目は、ハングルを覚え、自己紹介ができることを目的とする。日本語と韓国語の語順は似ていて比較的学び易いが、文字と発音はかなり異なる言語であり、まずこの文字と発音についてじっくり学んでいく。基本子音・基本母音の読み書きを学び、激音・濃音の子音、合成母音の順で覚えていく。文字に慣れてきたら、パッチムや発音変化を覚え、その後辞書の引き方、簡単な挨拶言葉、平叙形、疑問形、否定形、助詞と段階を踏んで学びを進めていく。	
			韓国語Ⅱ		本科目は、趣味や好きなこと等を話せ、相手にも聞くことができ、韓国のWEBサイトや新聞から情報を入手できる力をつけることを目的とする。発話と文法の両方に重点をおいて学んでいく。まず韓国語Ⅰ同様に教科書に沿って文法を学び会話力を身につける。漢数詞・固有語数詞のほかに、ハムニダ体やヘヨ体、過去形などの様々な語尾も覚えていく。また、平叙文、否定文、疑問文の作り方も学び、さらに、2つの文章を1つに連結する表現や尊敬形などの学習も行い、話したい内容をより豊かに表現できるように目指す。同時に、より正しい発音で音読し、学んだ表現を用いて会話する練習も行う。韓国の大衆文化映像を通し、韓国文化及び生きた韓国語の表現について学んでいく。	
			韓国語Ⅲ		本科目は、初中級レベルの語尾や表現を習得し、より幅広い作文・会話ができるようになることを目的とする。韓国語Ⅰ・Ⅱを履修した人を対象とし、各品詞の連体形及び連体形と関連した表現を学ぶことに重点をおく。また、意思と推量、仮定、感嘆、尊敬、因果関係、不可能など様々な場面で使える語尾や表現を学び、より具体的な状況を描写できる力を身につける。話す・聞く練習は、各自本文の内容を把握し、教員の質問を聞いて適切な表現で答える。時には各自質問を作文し、他の人に聞いたり、答えてもらう練習をする。それと同時に正確な発音で内容を伝える練習もする。さらに会話でよく用いられるフレーズに慣れ、基本的な文のスタイルを習得する。そして、韓国語Ⅱで習った助詞・疑問詞などをさらに的確に使えるようにし、韓国語の基礎力を確実にしていく。	
			韓国語Ⅳ		本科目は、変則活用と語尾、慣用表現に重点をおいて学ぶことを目的とする。韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで身につけた基礎力を発展させ、表現できることの幅を広げていく。具体的に「動作の進行と結果をあらわす」「約束をする」「理由を述べる」「可能・不可能をあらわす」「推測する」「許可を求める」「禁止・注意する」などの場面で使う様々な文の形を学んでいく。特に、意思の推量の接尾辞や婉曲及び前置きをする表現についても学習する。さらに、より長い文章の読解や作文にも挑戦していく。教員の質問に対し新しく学んだ表現で答えたり、各自応用して作った質問や答えを他人に伝える練習を着実にこなせば、韓国メディアや実際の会話場面において、聞き取れる語彙が増えたり、対応できる自信がついていく。なお、韓国の大衆文化映像に触れ、韓国文化及び生きた韓国語の表現についても学んでいく。	

大学 共通科目	外国語	ドイツ語	ドイツ語と文化		本科目は、異文化を理解しドイツ語の運用能力向上を目的とする。ドイツ語圏の文化を学びながら、ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学習した語彙や文法を復習すると同時に、語彙を増やし、ドイツ語の表現力を高める。学生同士のペアやグループ、インタビュー形式での対話練習、クラスでの発表など、学生の活動を中心に展開する形式で進める。1年生で学習した語彙や文法を確かなものにし、対話と聴き取り能力の向上を図る。ヨーロッパ共通参照枠レベルA1のドイツ語能力の習得を目標とする（独検4級程度）。	
			海外事情（ドイツ語）		本科目は、ドイツで生活しながらドイツ語を学び、実際に使用してコミュニケーション能力の向上と、異文化を実際に体験することを目的とする。授業は既に学習した語彙や文法を使い、全てドイツ語で進行し発音指導も行う。研修期間中、午後に週2回程度の市内にある歴史的建物や博物館などの見学と文化体験をする。週末には、ベルリン・ポツダム、ドレスデン・マイセン、ライプツィヒなどへ出かけて連邦議会や博物館等を見学したり、オペラの鑑賞や教会での音楽礼拝を体験することなどを予定している。現地のDaF（外国語としてのドイツ語）専門家による少人数の語学授業で、積極的に話すことが求められる。研修を通して、ヨーロッパ共通参照枠レベルA1のドイツ語能力の習得を目指す。	
			上級ドイツ語Ⅰ		本科目は、「話す、聴く、読む、書く」の四技能をバランスよく習得し、併せてコミュニケーション能力の向上を目的とする。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを基礎に、学習したことを繰り返しながら、語彙を増やし文法知識を広げる。また、ビデオでドイツの事情や日常生活を見ながら、ドイツに対する興味や理解を深める。ペアやグループでの練習、さらにインタビューやリポートなどで実際に声を出してドイツ語を話しながら学んでいく。上級ドイツ語Ⅱと合わせてヨーロッパ共通参照枠レベルA2の前半（A2.1）のドイツ語能力の習得を目標とする。	
			上級ドイツ語Ⅱ		本科目は、上級ドイツ語Ⅰの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで行う。「話す、聴く、読む、書く」の四技能をバランスよく習得し、併せてコミュニケーション能力の向上を目的とする。ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを基礎に、学習したことを繰り返しながら、語彙を増やし文法知識を広げる。また、ビデオでドイツの事情や日常生活を見ながら、ドイツに対する興味や理解を深める。ペアやグループでの練習、さらにインタビューやリポートなどで実際に声を出してドイツ語を話しながら学んでいく。最終的にはヨーロッパ共通参照枠レベルA2の前半（A2.1）のドイツ語能力の習得を目標とする。	
			外国語演習Ⅰ（ドイツ語）		本科目は、現代ドイツの日常文化について理解を深めると同時に、異文化コミュニケーション能力を養うことを目的とする。都会と田舎の生活、文化都市、職業、祝祭、感情表現、アイデアと発明等のテーマについて、日本とドイツの現代社会を比較しながら、テーマに合ったドイツ語の表現や文型・文法を学習する。授業は演習形式で、学生同士の対話・発表・活動を中心に展開する。ドイツ語圏の現状を新聞記事などを基に議論することもある。外国語演習Ⅱ（ドイツ語）と合わせて、ヨーロッパ共通参照枠レベルA2のドイツ語能力を修得することを目指す。	
			外国語演習Ⅱ（ドイツ語）		本科目は、外国語演習Ⅰ（ドイツ語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。現代ドイツの日常文化について理解を深めると同時に、異文化コミュニケーション能力を養うことを目的とする。都会と田舎の生活、文化都市、職業、祝祭、感情表現、アイデアと発明等のテーマについて、日本とドイツの現代社会を比較しながら、テーマに合ったドイツ語の表現や文型・文法を学習する。授業は演習形式で、学生同士の対話・発表・活動を中心に展開する。ドイツ語圏の現状を新聞記事などを基に議論することもある。ヨーロッパ共通参照枠レベルA2のドイツ語能力を修得することを目指す。	

大学共通科目	外国語	フランス語	フランス語と文化		本科目は、社会、政治・経済、文学、芸術などのトピックを通してフランスの基本事情を学び、アクチュアルなフランスの文化・社会についての認識を広げ、理解を深めることを目的とする。フランス語による授業の要点を聞きとること、テーマ毎に出される語彙を用い自らの考えを口頭発表及びレポートにまとめることを通じてフランス語の全般的技能を向上させることも目標である。	
			海外事情（フランス語）		本科目は、実際にフランスで生活し、フランスの文化を直に体験する。文化や社会への理解を深め、集中的にフランス語を学び、コミュニケーションスキルを磨き、語学技能の向上を図ることを目的とする。また、異文化の体験や観察を通じて、自らの考え方や行動様式を相対化できる視点を持つこともねらいの一つである。フランスのヴィシー市で2週間ホームステイをし、CAVILAM校で語学研修を受ける。さらに、その後、約3日間バリで文化研修をする。渡航が不可能である場合は、オンラインにて研修を実施する。	
			上級フランス語Ⅰ		本科目は、フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを修了した後で、さらにフランス語を用いて積極的に情報発信すること、広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を養成することが目的である。フランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、文法の練習問題を通して「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のさらなる技能向上を目指していく。仏検3級レベルの4技能の習得はもちろん、次なる準2級獲得への準備期間とみなし、その習得を目標とする。	
			上級フランス語Ⅱ		本科目は、上級フランス語Ⅰの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで行う。フランス語を用いて積極的に情報発信すること、広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を養成することが目的である。フランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、文法の練習問題を通して「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能のさらなる技能向上を目指していく。仏検準2級レベルの4技能の習得を目標とする。	
			外国語演習Ⅰ（フランス語）		本科目は、上級フランス語Ⅰ・Ⅱを終了した後で、フランス語を用いてさらに積極的に情報発信すること、多様な分野に関わる一般的な質問に対して、自分の意見を述べ、相手と対話することができるレベルになることを目標とする。広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を伸ばす。授業はフランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、グループに分かれ、任意に選んだ日常場面での会話をフランス語で作成し、発表する。さらに練習問題を通して、4技能である「読む」「書く」「聞く」「話す」のさらなる技能向上を目指していく。仏検準2級～2級レベルの4技能の習得を目標とする。	
			外国語演習Ⅱ（フランス語）		本科目は、外国語演習Ⅰ（フランス語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。フランス語で積極的に情報発信すること、多様な分野に関わる一般的な質問に対して、自分の意見を述べ、相手と対話することができるレベルになることを目標とする。広い視野に立ち、柔軟な姿勢で異文化に接し、自らの立ち位置を考えることのできる力を伸ばす。授業はフランスの政治・経済・社会・文化に関する時事的な話題を中心に展開し、会話文のシナリオ、和文・仏文のレポートを編集し、演習論集を作成する。さらに練習問題を通して、4技能である「読む」「書く」「聞く」「話す」のさらなる技能向上を目指していく。仏検準2級～2級レベルの4技能の習得を目標とする。	

大学共通科目	外国語	中国語	中国語と文化		本科目は、中華圏の文化と言語について海外事情(中国語)の準備を視野に入れて進めていく。中華圏の文化について幅広い深い知識を身につけること、簡単なヒアリングと短い文章が言えるようになること、簡単な感想を中国語で書けるようになることを目標とする。毎回、文化背景とそれに関わる会話を勉強し、加えて、中華圏の現状に関する映像資料を視聴することで実践的に学んでいく。中華圏の文化について様々な角度から学び、偏った情報に左右されないグローバルな視点と思考を身につける。	
			海外事情（中国語）		本科目は、中国語を学ぶ学生が、現地で中国語と文化を経験し学ぶことを目的とする。台湾で語学研修を行う予定である(ただし様々な事情により場所など変更する可能性あり)。現地では、各自、研修前に定めた目標をクリアし、生きた文化を肌で感じ学び、中国語会話に臆することなく参加できるようになることを目標とする。また、研修前(日本語)と研修後(中国語)にレポート提出し、帰国後に2つのレポートを中心とした文集を作成する予定である。	
			上級中国語Ⅰ		本科目は、中国語の確実な基礎力を身につけることを目的とし、日常的な会話を聞き取り、簡単な会話ができること、基本的な文法を理解し、簡単な作文ができるようになることを目指していく。文法とヒアリングの教科書から毎回課題を提出してもらい、確実に力を身につけていく。また、進度に応じてビデオ教材(映画やドキュメンタリーなど)も視聴する。これにより、中国語検定3級レベルの文法能力を身につけることを目標とする。	
			上級中国語Ⅱ		本科目は、上級中国語Ⅰの目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで行う。中国語の確実な基礎力を身につけることを目的とし、日常的な会話を聞き取り、簡単な会話ができること、基本的な文法を理解し、簡単な作文ができるようになることを目指していく。文法とヒアリングの教科書から毎回課題を提出してもらい、確実に力を身につけていく。また、進度に応じてビデオ教材(映画やドキュメンタリーなど)も視聴する。これにより、中国語検定3級レベルの文法能力を身につけることを目標とする。	
			外国語演習Ⅰ（中国語）		本科目は、文法の基礎を確認しつつ、中国語検定試験2～3級レベルに対応できる応用範囲までを確認・習得することを目的とする。ヒアリング力を強化し、教科書を中心に進め、力がついてきた段階でニュースやドラマなど別の教材を使用していく。基礎力がついたと判断した時点で、実践的な会話練習、簡単な討論の練習に入る。中国語で読み書き、会話ができるだけでなく、中国の経済や文化など背景も把握するように努める。一般的な会話や作文ができ、中華圏の人と意思疎通ができるようになることを目指していく。	
			外国語演習Ⅱ（中国語）		本科目は、外国語演習Ⅰ（中国語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。文法の基礎を確認しつつ、中国語検定試験2～3級レベルに対応できる応用範囲までを確認・習得することを目的とする。ヒアリング力を強化し、教科書を中心に進め、力がついてきた段階でニュースやドラマなど別の教材を使用していく。基礎力がついたと判断した時点で、実践的な会話練習、簡単な討論の練習に入る。中国語で読み書き、会話ができるだけでなく、中国の経済や文化など背景も把握するように努める。一般的な会話や作文ができ、中華圏の人と意思疎通ができるようになることを目指していく。	

大学共通科目	外国語	韓国語	韓国語と文化		本科目は、韓国語を成す一つ一つの単語や表現の背後にあるものを意識して学び、韓国の慣習や文化についてより多角的に理解することを目的とする。海外事情（韓国語）の履修を希望する学生は、現地で必要とされる語学力や知識を、より実質的に向上させることができる。授業では、基本的にテキストの内容に沿って進め、テキストの用語解説や辞書を使って本文の内容を翻訳できる程度の韓国語レベルが必要である。また、適宜、関連映像やエッセイ・記事も用いながら授業を進めていく。各回の本文の翻訳は毎回提出してもらい、長文の翻訳を通して訳す力と読解力、語彙力を養っていく。さらに、そのトピックに関して日本と比較しつつ、学生同士で討論することで韓国語能力の向上を図る。	
			海外事情（韓国語）		本科目は、韓国語を学ぶ学生あるいは既に学んだ学生が、韓国へ行き、現地の講師から授業を受けたり、伝統および現代文化に関するプログラムの体験を通して、韓国語能力の向上とともに現地の生きた言語および文化を学ぶことを目的とする。渡航前に事前学習として数回オリエンテーションを実施する。渡航先での語学学習や文化体験に関する具体的な計画を立て、その内容を発表する。渡航後は、韓国の大学の韓国語教育センターにて、月曜日から金曜日まで、現地の教員が韓国語で授業を行う。週に数回韓国市内で文化体験授業や見学に参加する。研修の最後には、それまで学んだ内容についてテストを実施し、その結果は担当教員にも報告される。帰国後は現地での学習と体験について、その成果及び内容を中心にレポートを提出し、本科目を総括する。	
			上級韓国語Ⅰ		本科目は、中上級レベルの文法と表現を習得し、より話せる・使える韓国語を身につけることを目的とする。本科目における韓国語レベルは、簡単な語彙や表現なら十分に理解でき、その意味の伝達が可能な程度が望ましい。韓国の記事やエッセイ、歌詞等を材料としたテキストを用い、書き言葉と話し言葉の両方の学習を並行して行う。さらにリスニング教材や映像資料を用いて聞き取りの訓練をする。イントネーションや発音練習、書き取り、話す練習に取り組む、韓国語全般にわたるスキルアップを目指していく。毎回、ショートスピーチやピア活動を行い、最低1回は韓国語で発表をしてもらう。またそれに対する質問と答弁も韓国語で行うことで、韓国語能力の向上を図る。	
			上級韓国語Ⅱ		本科目は、上級レベルの文法・語彙・表現を習得することを目的とする。上級韓国語Ⅰの修了者を対象とし、韓国の歴史・政治・社会・文化に関する文献を理解するために必要な文法と表現を学習しつつ、より実践的な言語活用のための「読む」「聞く」「書く」「話す」スキルをさらに向上させていく。さらに、一般的なテキストの他に、記事やエッセイ、映像資料も適宜用いる。全員最低1回は、韓国語のプレゼンテーションを行う。また、そのレジュメの作成や質問・答弁も全て韓国語で実施する。あらゆる場面におけるコミュニケーション学習を重視しつつ、適切な語彙と正しい表現を用いて長文を書く。また、長文を的確に要約する訓練も行う。より実践的に韓国語を使い、自分の努力次第では検定試験において最高レベルにも挑戦できる力を身につけることを目指していく。	
			外国語演習Ⅰ（韓国語）		本科目は、教科書づくりのプロセスを通して、韓国語力を総合的に高めていくことを目的とする。まず日本で刊行されている韓国語の教科書の種類や内容の傾向を把握する。そして既刊の教科書を学生各自が1冊ずつ担当して分析し、発表し合っってその情報を全員が共有する。そのうえで自分のアイデアやレベル、志向に応じたオリジナルの韓国語テキストを作る。重要なのは既刊の教科書にない特徴をいかに出すかという点である。これまで3年間にわたって韓国語を学んできたが、受け身の立場が多かったため、本科目では立場を変えることによって、気づかされることを補完しつつ、最上級レベルの韓国語力を目指していく。	
			外国語演習Ⅱ（韓国語）		本科目は、外国語演習Ⅰ（韓国語）の目的、概要を踏襲し、その続きのテーマで演習を行う。教科書づくりのプロセスを通して、韓国語力を総合的に高めていくことを目的とする。自分の言葉で教えることを意識して、各自計画した自家版教科書を引き続き作成する。既刊の教科書にない特徴を出しつつ、学生各自が自分のアイデアやレベル、志向に応じたオリジナルの韓国語テキストを作る。なお、その内容について発表し、議論しながら修正および補完していく。これまで3年間にわたって韓国語を学んできたが、受け身の立場が多かったため、本科目では立場を変えることによって、最上級レベルの韓国語力を目指していく。	

国際交流関係科目	国際交流コース	日本の文学〔国際〕		本科目は、日本文学（SF、ロマンチズム、リアリズム、ドラマや演劇、殺人ミステリー、宗教、神秘主義、コメディ、戦争、伝説、詩と日記、戦争や超自然的な伝説の物語など）の概説を目的としている。授業では早期から現代の主要な作品を読むことにより日本文化、人々、社会の変遷を追う。そのことにより日本文化や美学に対する理解を深める。授業では北海道開拓の村や北海道博物館への2回のフィールドトリップ、日本の短編小説の英語版読解、映画やドキュメンタリー視聴を元に、教員やクラスのメンバーと意見交換を行う。明治時代から現代までの日本の近代文学、または奈良時代から江戸時代までの日本の古典文学のいずれかについて、クラス内で各1回のプレゼンテーションとエッセイを書く。	
		日本のサブカルチャー		本科目は、日本のサブカルチャー、主に小説、漫画、映画、ドラマ、アニメ、ゲームなど幅広い分野について、作品を通して日本のサブカルチャーを学ぶと共に、各自の文化を紹介・討論することによって、日本文化と各国文化の比較を行い、理解を深めることを目的とする。英語の同時通訳付きで、日本の多種多様な文化の作品を読んだり見たりすることによって基本的な日本のサブカルチャーの基礎的知識を増やす。インターネットの発展に伴うメディアの歴史とそのコンテンツを学ぶことにより、日本文化と各国文化を比較しつつグローバルな視点を身につけていく。	
		日本の歴史〔国際〕		本科目は、1853年にアメリカから東インド艦隊司令長官ペリーが日本に来航してから1945年第二次世界大戦で日本が敗戦するまでの期間および終戦後から1960年代の高度経済成長期までの期間の歴史を学んでいく。特に政治、外交、経済的側面に重点を置いた講義を行う。日本の様々な時代の背景にある日本文化や歴史について知識を得ることを目的とする。授業は講義形式で進めていく。	
		日本の社会〔国際〕		本科目は、現代の日本社会について学ぶことを目的とする。毎週、現代日本社会の様々な側面を取り上げ、それがグローバル社会における日本人の立場にどのような影響を与えているのかについて考察する。現代の社会問題についての読み物、アンケート調査、特定のテーマについて討論を行うことで、日本の社会や他国の社会の動向について批評し、現代日本における社会問題や変化の過程に関する知識を身につけていく。本科目の最終目標は、グローバル社会における日本の立ち位置をより深く理解すること、日本社会における流行を批判的に見るができるようになることである。現代日本社会の課題に焦点を当て、それらの課題が日本の将来と世界における日本の立ち位置に、どのような影響を与えるのかを明らかにすることである。	
		日本社会における言語とジェンダー〔国際〕		本科目は、「女性（男性）間での多様性」や「社会的な場面・文脈・慣習における個々の行動」に目を向ける必要があるという考え方に基づき、「女性と男性は会話において異なる話し方をする」という通説に批判的な検討を加える。また、その俗説が引き起こす悪影響の可能性について、批判的に考えられるようになることを目標とする。授業では、課題に関するディスカッションを行い、また、履修者の実際の会話を録音し、その分析を行っていく。	
		日本の金融と経済〔国際〕		本科目は、日本における非慣習的な金融政策やQQEと称される Quantitative and Qualitative Easingを中心とする日本の金融政策と日本の経済について理解することを目的とする。日本の経済政策や金融市場、経済状況、さらには日本国内の経済に深く関わる世界情勢などを学び、日本経済の現在の課題や将来の展望について学術的検討を行う。授業では講義のテーマに対するディスカッションも行い、授業を通して、日本の金融政策の現在の問題および将来の動向についてアクティブラーニングを通じて理解する。学生は現代における経済の問題について自身の意見を述べられるようになることを目標とする。	

国際交流関係科目	国際交流コース	マネジメント論〔国際〕		本科目は、現代の経営の基礎を学ぶことを目的とする。経営の目的を学び、成功した経営者たちが何をどのように行っているのかを明らかにすることで、適切な経営の特徴を見極め理解する。ビジネスの根本的な目的は、市場が求めるニーズを満たすために製品やサービスを生み出すことであるという考えに基づく。経営理論の歴史と様々な理論が現在までにどのように発展してきたのかを理解し、経営者や会社が行っていることを検討し、ビジネス経営のための重要な知識の幅を広げる。授業は、講義、プレゼンテーション、ディスカッションを交えて進めていく。	
		日本の文化〔国際〕		本科目では、文化は、言語的・非言語的な行動の意味に影響を与える文脈の一つであると考え、履修者に日本文化に関する概念に慣れ親しむ機会を提供する。典型的な行動や現象を反映した日本人の価値観や世界観についての理解を深めるとともに、日本人とのコミュニケーションにおける基礎知識をつけることを目的とする。授業では、日本の文化についての講義と学生同士のディスカッションを行う。毎週、読み物や映像を用いて、日本文化を説明するための主な概念や関連した問題を解説していく。ディスカッションでは、自身の文化体験を共有するための短いshow-and-tellや他の人の発表に対する意見交換などを行っていく。	
		国際経済〔国際〕		本科目は、国際経済への非正統的アプローチについて学ぶ。主流派経済学は、外国貿易に関する自由放任政策が社会の経済厚生を増加させると主張してきた。しかし他方、ある条件の下ではそれは有害であるかもしれないという主張もあり、かわりに保護主義を国際貿易に導入するべきであるという提案もなされてきた。本科目では、新古典派に対する代替的思考として、貿易に関する非正統的アプローチについて検討する。その検討過程において、日本の外国貿易と企業についても言及する。授業は、講義とディスカッションを交えて行う。	
		日米（経済）関係〔国際〕		第二次世界大戦以降、日米関係は非常に親密となった。第二次世界大戦から今世紀に至るまで、二国間で様々に変化してきた互いへの対応を経済・政治・文化の観点から考察する。特に両国の関係が大きくメディアに注目され摩擦が生じた1980年代や1990年代初頭は集中して取り扱う。授業では講義とディスカッションを行い、毎週、参考映画を視聴する。最終週は、まとめとして20世紀の終わりと現在までの関係について分析し、二国間の将来の関係についてディスカッションする。	
		日欧（経済）関係〔国際〕		本科目は、主に経済的観点から第二次世界大戦後のヨーロッパと日本の関係について考察する。戦争により経済的基盤に相当な打撃を受けた日本とヨーロッパは、経済復興前の状態が類似している。しかし、復興後の結果は大きく異なっている。本科目では、復興後の結果の相違点が生じた理由と背景を検討する。戦後から21世紀までの日本経済・ヨーロッパ経済の業績や政策を分析し、両者間の現代における経済関係を深く理解することを目的とする。	
		比較文化〔国際〕		本科目は、北海道のアイヌとニュージーランドのマオリの歴史や文化を比較する。そのことにより、両文化をより深く理解し、どのように過去の歴史が両文化に影響したかを理解する。言語と文化は結びついているため、授業に必要なアイヌ語とマオリ語も学んでいく。アイヌの方、あるいはアイヌについて発表できる方をゲストスピーカーとして招き、より理解を深めていくことも予定している。視聴覚教材等を用いながら、ディスカッションも交えて進めていく。	

国際交流関係科目	国際交流コース	日韓比較文化論		本科目は、日韓のテレビ、映画、新聞、雑誌、インターネット等のメディアを活用して日韓の類似性と相違性を把握し、他文化を理解するとともに自文化を客観的な視点で捉え直す力を身につける。韓国人留学生と日本人学生の協働学習により、日韓間の諸問題を解決するのに必要な「相互理解」を深める。講義では日韓の多様なメディアを用い、日韓の文化を比較してその相違性が何に起因するのかを検討し、相互理解への解決法を模索する。これにより他文化を理解し、同時に、当たり前のように受容している自文化を客観的にながめる能力を身につけることを目指す。	
		メディア論〔国際〕		本科目では、まず第一に日本社会における例を用いて基本的なメディア倫理について学ぶ。トピックは、①巨大地震とメディア倫理、②メディア倫理の現代の諸問題、③メディア倫理における典型的な日本の問題、である。第二に、学生は北星学園大学の特派員として、ビデオカメラを用いて興味深い3分間のビデオレポートを作成する。これにより、報道による情報について論理的に考える力を身につけ、的確にメディアを使ってメッセージを発信する能力を高める事を目標とする。	
		コミュニケーション論〔国際〕		本科目では、日本企業や日本にある国際企業の危機を取り上げ、どのようにその対応が行われ、定着した日本の企業文化が出資者のグローバルな基準を満たすことができたのかどうか等を検討する。基礎的な教科書とケーススタディを用いて、上記の間に於ける広報の役割について、実践者、歴史的、理論的な観点から議論する。これにより、パブリック・リレーションズの分野について実質的な理解を深め、日本でのパブリック・リレーションズのあり方などについて学んでいく。	
		環境経済		本科目では、経済学の実践と理論における環境の役割に焦点を当てる。議論にはミクロ経済学と統計的分析を用い、また、実世界での例も取り入れる。この授業の目標は、学生に知識、スキル、社会に貢献するための知恵を提供することである。授業は講義、ディスカッション、発表によって進められ、環境問題や経済についての深い知識を得ると同時に、その知識を応用して、実社会で活用できるようになることが本科目の到達目標である。	
		国際交流特別講義		本科目は、基本的に本学の交流教員制度により協定校から短期で受け入れる交流教員が担当する科目である。授業は主に英語で行われ、協定により内容は、①交流教員の自国の文化や社会について、②交流教員の専門分野について、に基づく形となる。他国に関する知識を取得し、日本と比較できるよう異文化について理解を深めること、他国の文化や社会への認識を深め、国際交流を行いながら、広い見識を身に付けていくことが目的である。	
		日本語教授法Ⅰ		本科目は、日本語非母語話者を対象とした日本語教育の基礎知識及び教室活動の実践方法を学ぶ。コース前半では理論を中心とした議論を行い、コース後半は実際に教室活動をいかに進めていくべきか理論を反映させながら検討するワークショップを行う。これまでに提唱されてきた様々な言語教授法について検討しながら変遷をたどり、また、「聞く・読む・話す・書く」技能について、相互行為の観点から考察するとともに実践的にこれら四技能のための教材のモデルを比較、検討していく。	

国際交流関係科目	国際交流コース	日本語教授法Ⅱ		本科目は、日本語非母語話者を対象とした日本語教育の基礎知識及び教室活動の実践方法を学ぶ。日本語教授法Ⅱでは、具体的に、音声、ひらがな、漢字、初級の文型とその使用法などを教える際の基礎知識を習得すると同時に、「模擬授業」を通じ、それらをどのように初級日本語の授業で練習させていくかについて学習する。音声、文型などの教授法の基礎知識を習得する際は、広範な知識の紹介というよりは、初めて日本語を勉強する初級学習者向けに焦点を絞って、どう知識を導入・説明していくかという点に重点を置く。また、英語を媒介語として使用可能な日本語学習者を前提にしているため、英語での簡潔な説明のための専門用語などに慣れることも目標とする。	
		日本語教授法Ⅲ		本科目は、日本語教授法Ⅰで概観した観点を深め検討する理論的側面と、日本語教授法Ⅱで扱った初級文法の教授法を継続して学ぶ実践的側面の2本の柱により進められる。日本語教授法Ⅱでは扱えなかった初級文法のいくつかの項目について、その教授方法を継続して学んでいき、模擬授業についても引き続き実施していく。授業で扱った文法項目や漢字の教え方などについて説明できるようになること、授業で扱った会話分析概念の観点から日本語教科書のモデル会話の問題点を説明できるようになることを目標とする。	
		Academic Skills for Study Abroad		本科目は、英語を母語としない学生が海外留学先で専門科目を受講する際に必要となる事前知識やスキルを身につけることを目的とする。英語により専門的な科目を履修することを想定し、リーディング、ライティング、プレゼンテーションのスキルに加え、異文化圏でのコミュニケーションスキルについて学んでいく。例えば、自己紹介の仕方、講師からの質問への答え方、必要に応じて講師に質問する方法やタイミングなど、また、クラスでの講師やクラスメートとの関わり方についても学習する。講義に加え、実際のリーディング、ライティング、プレゼンテーション、Q&Aセッション、ロールプレイを通して、英語圏の大学で学ぶための学問的・社会的言語スキルを身につける。	

学校法人北星学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員 (3年次)	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員 (3年次)	収容 定員	変更の事由
北星学園大学				北星学園大学				
文学部				文学部				
英文学科	131	15	554	英文学科	<u>91</u>	<u>5</u>	<u>374</u>	入学定員変更(△40)、編入学定員変更(△10)
心理・応用コミュニケーション学科	96	10	404	心理・応用コミュニケーション学科	<u>90</u>	<u>0</u>	<u>360</u>	入学定員変更(△6)、編入学定員変更(△10)
経済学部				経済学部				
経済学科	161	6	656	経済学科	<u>152</u>	<u>0</u>	<u>608</u>	入学定員変更(△9)、編入学定員変更(△6)
経営情報学科	107	5	438	経営情報学科	<u>102</u>	<u>0</u>	<u>408</u>	入学定員変更(△5)、編入学定員変更(△5)
経済法学科	116	5	474	経済法学科	<u>104</u>	<u>0</u>	<u>416</u>	入学定員変更(△12)、編入学定員変更(△5)
社会福祉学部				社会福祉学部				
社会福祉学科	120	5	490	社会福祉学科	120	<u>0</u>	<u>480</u>	編入学定員変更(△5)
心理学科	70	5	290	心理学科	70	<u>0</u>	<u>280</u>	編入学定員変更(△5)
				国際学部				学部の設置(届出)
				グローバル・イノベーション学科	<u>95</u>	<u>0</u>	<u>380</u>	
計	801	51	3,306	計	<u>824</u>	<u>5</u>	3,306	
北星学園大学大学院				北星学園大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
言語文化コミュニケーション専攻(修士課程(2年制))	3	—	6	言語文化コミュニケーション専攻(修士課程(2年制))	3	—	6	
経済学研究科				経済学研究科				
経済学専攻(修士課程(2年制))	4	—	8	経済学専攻(修士課程(2年制))	4	—	8	
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻(修士課程(2年制))	4	—	8	社会福祉学専攻(修士課程(2年制))	4	—	8	
臨床心理学専攻(修士課程(2年制))	4	—	8	臨床心理学専攻(修士課程(2年制))	4	—	8	
社会福祉学専攻(博士課程(3年制))	2	—	6	社会福祉学専攻(博士課程(3年制))	2	—	6	
計	17	—	36	計	17	—	36	